

# 葛原遺跡Ⅲ

—F・H・I区の調査報告—

2007年

日田市教育委員会

## 序 文

葛原遺跡は市内でも古くから石器が採集される場所として周知されてきた遺跡の一つで、遺跡のある台地上には旧石器時代から中世に至るまでの集落跡や山城などが残っています。

今回報告します調査内容は、道路・ポンプ場・民間工場といった各建設工事に先立って発掘調査を行った三箇所の調査成果を一冊にまとめ、「葛原遺跡III」として発行するものです。

調査では各々の発掘区より、縄文時代や弥生時代の竪穴住居をはじめとします古代の遺構や遺物が発見されています。

すでにこの遺跡では、発掘調査で発見された古墳時代の竪穴住居が、三和酒類いいちこ日田蒸留所内に復元されており、多くの来訪者の目にとまるなど文化財の活用が図られています。

このように遺跡の活用がますます望まれるところでもあり、また本書がこうした文化財の保護、地域の歴史や学術研究の解明、小中学生の社会教材資料等に寄与されれば幸いです。

最後に、調査から整理・報告書作成にいたるまでご指導、ご協力を賜りました土地所有者をはじめとします多くの関係者の皆様方に対し、心より厚くお礼を申し上げます。

平成19年3月

日田市教育委員会  
教育長 謙 山 康 雄

## 例　　言

1. 本書は、日田市教育委員会が実施した葛原遺跡F～I区の発掘調査報告を合本したものである。
2. 各調査にあたっては日田市土地開発公社、日田市水道課、日田市土木課のほか、土地所有者の皆さんのご協力を受けた。
3. 調査現場での実測・写真撮影は調査担当者が行った。
4. 本書に使用した遺構図の方位は、全て磁北である。
5. 本書に掲載の遺物実測・製図は、調査担当者と中川照美（日田市調査補助員）が行ったほかに、一部を雅企画有限会社・（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
6. また、遺物写真は長谷川正美氏（雅企画有限会社）に撮影委託した成果品を使用している。
7. 写真図版中の番号は、全て挿図番号と一致する。
8. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の執筆は、I～III・VIを土居、I・IVを行時、Vを今田が行なった。
10. 本書の編集は、土居・行時・今田で協議し行なった。



## 目 次

I.	調査に至る経過と組織	1
II.	遺跡の立地と環境	3
III.	F区の調査	5
IV.	H区の調査	11
V.	I区の調査	21
VI.	まとめ	33

## 挿 図 目 次

第1図	周辺の遺跡分布図 (1/25000)	3
第2図	調査区位置図 (1/5000)	4
第3図	F区遺構配置図 (1/400)	6
第4図	F区1・2号土坑実測図 (1/40)	6
第5図	F区3～12号土坑実測図 (1/40)	7
第6図	F区13～21号土坑実測図 (1/40)	8
第7図	F区22～31号土坑実測図 (1/40)	9
第8図	F区土坑出土遺物実測図 (1/4・2/3・1/2)	10
第9図	H区遺構配置図 (1/200)	11
第10図	H区1号竪穴住居実測図 (1/60)	13
第11図	H区2号竪穴住居実測図 (1/60)	13
第12図	H区3号竪穴住居実測図 (1/60)	14
第13図	H区1号掘立柱建物実測図 (1/60)	14
第14図	H区1～4号土坑実測図 (1/40)	15
第15図	H区5～7号土坑実測図 (1/40)	16
第16図	H区8～10号土坑実測図 (1/40)	17
第17図	H区出土土器実測図 (1/4)	18
第18図	H区出土石器実測図 (1/2・2/3)	19
第19図	I区遺構配置図 (1/500)	22

第20図	I 区竪穴遺構実測図 (1/60) .....	23
第21図	I 区竪穴遺構出土遺物実測図 1 (1/4) .....	23
第22図	I 区竪穴遺構出土遺物実測図 2 (1/4・2/3) .....	24
第23図	I 区土坑実測図 1 (1/40) .....	25
第24図	I 区土坑実測図 2 (1/40) .....	26
第25図	I 区土坑実測図 3 (1/40) .....	27
第26図	I 区土坑実測図 4 (1/80) .....	28
第27図	I 区土坑出土遺物実測図 (1/4・1/2・2/3) .....	29
第28図	I 区のその他の出土遺物実測図 1 (1/4・2/3) .....	30
第29図	I 区のその他の出土遺物実測図 2 (2/3) .....	31

### 表 目 次

第1表	竪穴住居・竪穴遺構観察表 .....	34
第2表	掘立柱建物観察表 .....	34
第3表	土坑観察表 .....	34
第4表	溝観察表 .....	35
第5表	出土土器観察表 .....	35
第6表	出土石器観察表 .....	37

### 写 真 図 版 目 次

写真図版 1	F 区全景、F 区 1・3～6・10～13 号土坑
写真図版 2	F 区 14～22・24・25・28・29 号土坑
写真図版 3	F 区出土遺物
写真図版 4	H 区全景
写真図版 5	H 区 1～3 号竪穴住居、4・5・6・9 号土坑
写真図版 6	H 区出土遺物
写真図版 7	I 区全景、竪穴遺構、5・14・18 号土坑
写真図版 8	I 区出土土器
写真図版 9	I 区出土石器 1
写真図版 10	I 区出土石器 2

## I. 調査に至る経過と組織

### (1) F・G区

この調査の発端は、昭和 62 年 6 月 22 日付け市土木課長名で市道三ノ宮バイパス新設工事に伴う埋蔵文化財の照会文書が市教委に提出されたことによる。工事は葛原台地上に進出が決まっていたニッカウヰスキー工場建設に伴うもので、すでに市教委は葛原遺跡 A～E 区の発掘調査を実施しており、工事路線内に遺跡の存在する可能性が高いと判断し、計画内の二箇所 (F・G 区) に試掘坑を入れた。結果、今回報告する F 区において遺構が検出されたため、緊急の発掘調査を実施することになった。なお、G 区については遺構が検出されなかつたため、発掘調査には至っておらず、今回の報告には掲載しない。

発掘調査は昭和 62 年 8 月 3 日より試掘調査結果を基に遺構が確認された範囲を対象に開始し、機械で表土を除去した後に、遺構検出作業を行った。調査では個別の遺構の掘り下げ、写真撮影、実測の各作業を順次行ったが、本調査と並行した A～E 区の調査もあって途中作業を中断し、10 月 8 日には全作業を終えた。

### (2) H 区

調査の対象となった北部簡易水道事業は、平成 6 年度に日田市財津町、藤山町、三河町に配水するための配水タンクを葛原台地上の大字西有田字葛原 833-1 に建設することとして事業計画が決定された。本事業が実施される工事予定区域は、昭和 62 年度に株式会社ニッカウヰスキー九州工場建設及び市道葛原線建設に先立ち発掘調査を実施した地区に隣接しており遺構の存在する可能性が高いことから、市水道課と協議を行い平成 6 年 8 月 22 日～23 日に試掘調査を実施した。調査の結果、事業予定区域内柱穴や土坑等の遺構の存在が確認されたことから、再度市水道課と遺跡の取り扱いについて協議を行った。協議の結果、遺跡の保存は事業の緊急性などから困難であり年度内には工事を着手したいとの意向であったため、平成 6 年 12 月 16 日より国庫補助事業の予算をもって緊急の発掘調査を実施することになった。

発掘調査では、簡易水道施設の建設予定範囲が 1 筆全体に及ぶことから、機械により全体の表土を除去したのち、遺構検出作業に移つていった。遺構検出面は、表土除去と同時に黄褐色の地山が現れるとともに柱穴や土坑などの遺構が検出された。調査では個別の遺構ごとの掘り下げ・写真撮影・実測の各作業を順次行い、平成 7 年 1 月 21 日にはすべての発掘調査業務を完了することができた。

### (3) I 区

調査は、平成 8 年 3 月 29 日付け市企業立地対策室長名で企業誘致事業に伴う埋蔵文化財の照会文書が市教委に提出された。事業予定地はこれまでに数回の発掘調査が行われ、遺構が発見されると予想されたので、試掘調査の必要があるとの回答を行った。その後、小久保製氷冷蔵株式会社の正式な進出の決定を受け、試掘調査を 6 月 18 日に実施した。試掘調査の結果、土坑などの遺構が発見されたため、企業立地対策室等との協議を行ったが、造成の掘削部分に遺跡が存在することから、現状保存や工法変更は不可能との結論に達し、緊急の発掘調査を行うことになった。

発掘調査は、平成 8 年 7 月 10 日より開始した。調査では機械で全面の表土剥ぎを行い、並行して遺構検出作業を行つたが、炎天下でもあり、また遺構面がローム層ということもあって遺構検出作業には時間を費やすことになった。その後は個別の遺構の掘り下げ、写真撮影、実測の各作業を順次行い、8 月 8 日には空撮を実施し、8 月 10 日には全ての作業を終了した。

#### (4) 調査組織

F区の発掘調査／昭和 62 年度 (1987)

調査主体 日田市教育委員会 調査責任者 橋原芳彦（教育長）

調査事務 武石邦男（日田市立博物館長） 小塙サダ子（同事務員）

調査員 土居和幸（同学芸員） 友岡信彦（同課嘱託・現、大分県教育委員会）

調査補助員 江藤和幸（別府大学・現、宇佐市教育委員会） 藤本啓二（別府大学・現、国東市教育委員会）

発掘作業員 安心院春子 謙山愛子 謙山公子 謙山ユミ子 巖典子 内野孝子 後藤大輔 後藤ツヤ子 坂本和代

佐藤千代吉 貞清カナエ 白石政信 高倉慶 高倉洋礼 立花幸 長尾トヲ子 中島トミ子 中島幸江

中島マサ子 藤原ナツエ 森山朋美 森山敬一郎 森山孝子 森山信義 森山好美 了正美代子

H区の発掘調査／平成 6 年度 (1994)

調査主体 日田市教育委員会 調査責任者 加藤正俊（教育長）

調査事務 原田良伸（文化課課長） 財津寅日出（同課長補佐兼文化財係長）

調査員 土居和幸（同主任） 行時志郎（同主任） 松下桂子（同主事補） 森山敬一郎（同嘱託）

発掘作業員 秋ヤエ子 秋吉ユキ 石井ツヤ子 石井トモ子 栗秋ミズエ 五反田静子 坂本和代 坂本ムツ子

桜木十四子 清水忠造 庄内武子 長尾美智子 松井鈴子 森山ハナ子 森山好美 柚木ユキエ

吉長澄江

I区の発掘調査／平成 8 年度 (1996)

調査主体 日田市教育委員会 調査責任者 加藤正俊（教育長）

調査事務 原田俊隆（文化課課長） 長尾幸夫（同課長補佐兼文化財係長）

調査員 土居和幸（同主任） 行時志郎（同主任） 松下桂子（同主事補） 永田裕久（同主事補） 森山敬一郎（同嘱託）

発掘作業員 秋吉ユキ 父安達義男 有富雪子 伊藤ヤコ子 伊藤大輔 江藤勝義 加納健作 上川彰 北澤幾子

財津由太 酒井光敏 佐藤み代子 園田光子 高倉富美子 高倉美利 田中昇 津江久徳 中嶋泉

中島カズ子 中島和子 中島ツネ子 中島トミエ 中島ヨシ子 松岡初次 森山和徳 吉長澄江

渡辺千美子

報告書作成／平成 18 年度 (2006)

調査主体 日田市教育委員会 調査責任者 謙山康雄（日田市教育委員会教育長）

調査統括 後藤 清（文化財保護課課長）

調査事務 高倉隆人（同課長補佐兼埋蔵文化財係長） 伊藤京子（同専門員）、中村邦宏（同主事補）

調査員 行時桂子・若杉竜太・渡邊隆行（同主任） 矢羽田幸宏（同主任）

調査補助員 中川照美 杉野貴幸

報告書作成 土居和幸（日田市総務財政部税務課副主幹） 行時志郎（日田市農林經濟部農政推進課主査）

今田秀樹（文化財保護課主任）

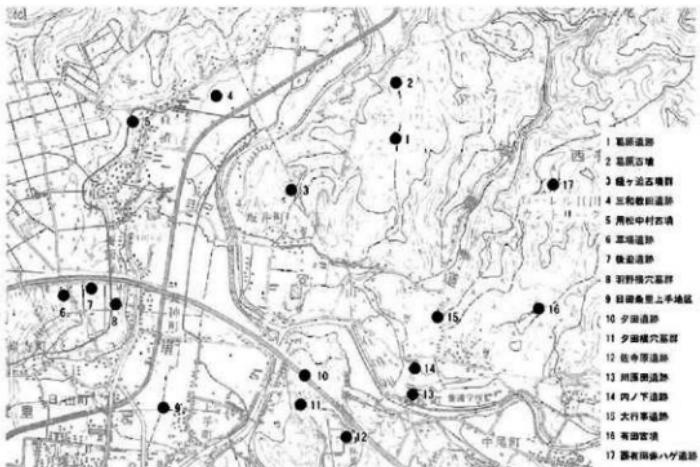
## II. 遺跡の立地と環境

葛原遺跡は日田市北東部の標高 170 m 前後を測る通称“葛ヶ原”と呼ばれる広さ約 16ha の台地上に位置する。古地西側下を花月川が南流し、台地南側下にはその支流である有田川が西へと流れ、台地の南西部で合流している。両河川は台地に接するように流れしており、このため台地下における沖積地の面積は狭く、また台地東側は急な谷部を形成している。台地上は緩やかな起伏がみられ、これまで主に畑や山林として利用されていたが、工場建設などにより様子は変わろうとしている。

周辺の遺跡を概観すると、花月川流域の沖積地には三和敷田遺跡(4)や日田条里上手地区(9)が存在する。前者はこれまでの調査で旧石器時代～中世の複合遺跡であることが判明し、弥生時代の環濠集落も発見されている。また右岸の山田原台地上には弥生時代の大規模集落である後迫遺跡(7)や方格規矩鏡片が発見された草場遺跡(6)、用松中村古墳(5)などが所在し、台地東斜面には 5～8 世紀の羽野横穴墓群(8)が営まれている。

いっぽう、有田川下流域の沖積地には内ノ下遺跡(14)や川原田遺跡(13)が存在し、丘陵上には古墳時代の集落が調査された大行事遺跡(15)や西有田奈ハゲ遺跡(17)のほかに、古墳時代中期の有田古墳(16)がそれぞれ位置している。川を挟んで対峙する佐寺原台地上の佐寺原遺跡(12)では弥生時代前～後期の集落が発掘され、その端部には夕田遺跡(10)、台地斜面には 5～7 世紀の夕田横穴墓群(11)がこれまでに調査されている。

さて、葛原遺跡ではこれまでに 6 回の発掘調査が行われている。A～E 区では縄文時代の土坑群や、古墳時代後期の堅穴住居・壠立柱建物などが発見されており、J 区では古墳時代後期の堅穴住居などが発掘されている。これらの調査は主に台地（遺跡）の北半分に集中しているが、遺構は台地全面に展開している。本格的な調査は行われていないが遺跡南側には中世の城跡、さらに斜面中腹には円墳 3 基で構成される縫ヶ迫古墳群(3)、台地の北側には若原古墳(2)の存在が知られている。



第 1 図 周辺の遺跡分布図 (1/25000)



第2図 調査区配置図(1/5000)

(参考文献)

- 洪谷忠章他編『日田市羽野横穴墓群発掘調査概報』大分県教育委員会 1993年  
 行時 志郎編『西有田赤ハゲ遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第7集 日田市教育委員会 1992年  
 吉田 博嗣編『三和教田遺跡C地点』大分県文化財調査報告書第98編 大分県教育委員会 1997年  
 友岡 信彦編『夕田遺跡群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(14) 大分県教育委員会 1999年  
 友岡 信彦編『後迫遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(16) 大分県教育委員会 2001年  
 渡邊 隆行編『内ノ下遺跡・大行事遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第33集 日田市教育委員会 2002年  
 若杉 竜太編『後迫遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第35集 日田市教育委員会 2002年  
 渡邊 隆行編『葛原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第38集 日田市教育委員会 2002年  
 土居 和幸編『葛原遺跡II』日田市埋蔵文化財調査報告書第53集 日田市教育委員会 2004年

### III. F 区の調査

#### (1) 調査の概要 (第 3 図)

発掘調査は、試照調査において遺構が確認された道路建設予定地内を全面を機械によって表土を剥ぎ進めた。表土下は暗茶褐色土の地山で、調査において検出した遺構は土坑 30 基、ビット 93、溝 1 条である。このうち溝 1 条については後世のものである。土坑やビットについては調査区の北側に集中して存在する傾向にあった。調査面積は 497 m<sup>2</sup>である。

#### (2) 遺構と遺物

##### 土坑 (第 4 ~ 7 図、写真図版 1・2)

検出した土坑は、その平面形態により円形 (1)、横円形もしくは長方形 (3・6・13・16・21・22・24~29・31)、不整形 (2・5・7・9~12・14・15・17・19・20・23・30) に分けられる。1 号は二段掘りの土坑で、床面直上には甕が逆さまの状態で出土した。このほかにも弥生土器の甕や黒曜石の剝片などが出土している。2・4 号からは弥生土器片、3 号からは弥生土器片と剝片が数点出土。4・8 号は重複関係にあり、4 号が 5・8 号を、5 号が 6 号を、7 号が 8 号をそれぞれ切る。5・6 号からは弥生土器片が数点出土。12 号は 13 号を切る。12・13 号からは弥生土器片が数点出土。14 号は 15 号を切る。16・17 号からは弥生土器片や黒曜石や潤片が出土しており、17 号は 18・19 号を切る。21 号からは弥生土器片が数点出土。28・29 号からは「く」字状に外反する甕と思われる弥生土器片が出土しており、28 号は 29 号を切る。

##### 出土遺物 (第 8 図、写真図版 3)

1~4・6 は甕である。1 は「く」字状に短く外反する口縁部を有する小型の甕である。19 号出土。2 は口縁部が「L」字状をなす小型の甕である。17 号出土。3~4 は両縁とも口縁部が「L」字状をなす。3 は口縁部が長く、4 は短い。5 は甕である。口縁部は外反し、端部は垂れ下がり気味。頸部下には二本の三角突起が貼り付けられている。肩部はふくみをもち、最大径付近に二本の三角突起が貼り付ける。3~5 は 1 号出土。6 は甕の底部。上底で、底は平坦。13 号出土。7 はミニチュア土器の底部。17 号出土。

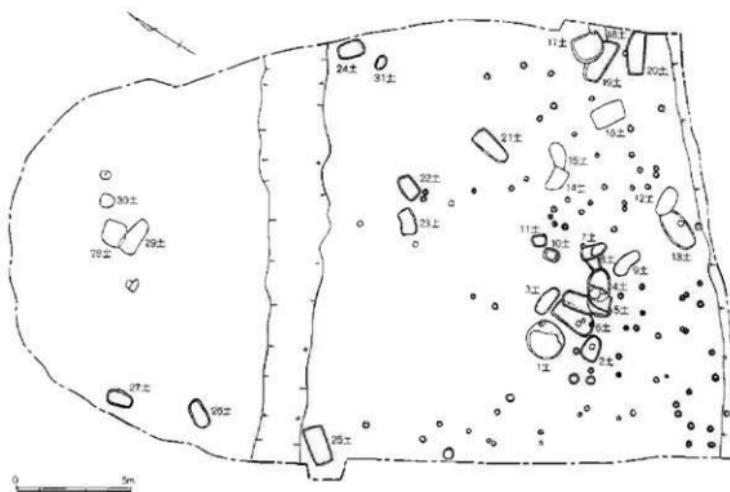
8・9 は石縫である。8 は二次加工が縫邊部全周に施されている。両脚先端を欠く。黒曜石製。9 は両脚先端と先端部を欠く。安山岩製。10 は打製石斧。安山岩製。8 は 1 号、9 は 17 号、10 は 16 号出土。

##### ビット (第 3 図)

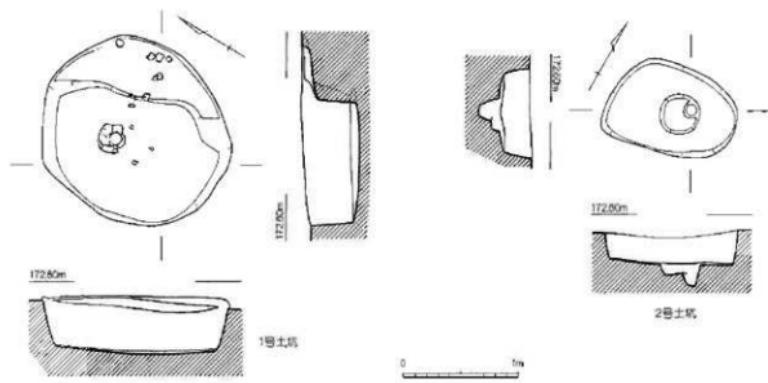
ビットのうちいくつかは木の根によるものと思われるものがある。出土遺物は少なく、P 1・2・4・6・7・8・10・11 から器小片、P 3・4・9 からは剝片が出土している。なお、建物となる柱痕は確認されなかった。

#### (3) 小結

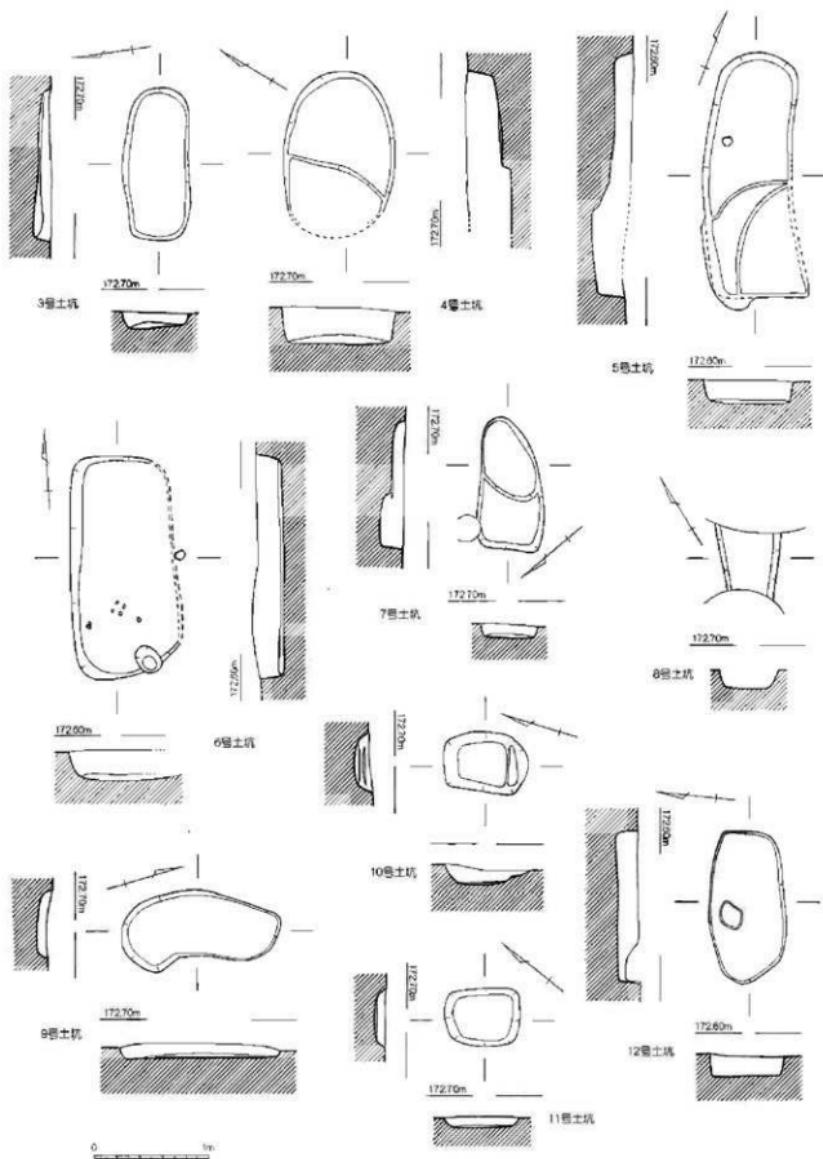
この調査区では主に土坑を検討した。その時期についてまとめると、1 号土坑からは口縁部が逆「L」字状をなす甕に、口縁が朝顔形に開く口縁に肩部と頸部に三角突起を迷らせる甕が共存しており、これらの特徴から城ノ越式に相当する。他の 13・17・19 号出土の甕も、1 号の甕と類似している点からすれば、同時期とみて差し支えないであろう。このほかの土坑は時期判断できる遺物は出土していないが、他の調査区でみられる縄文土器や中世甕の遺物が見当たらないことからすれば、大半は同時期と考えてもよさうである。



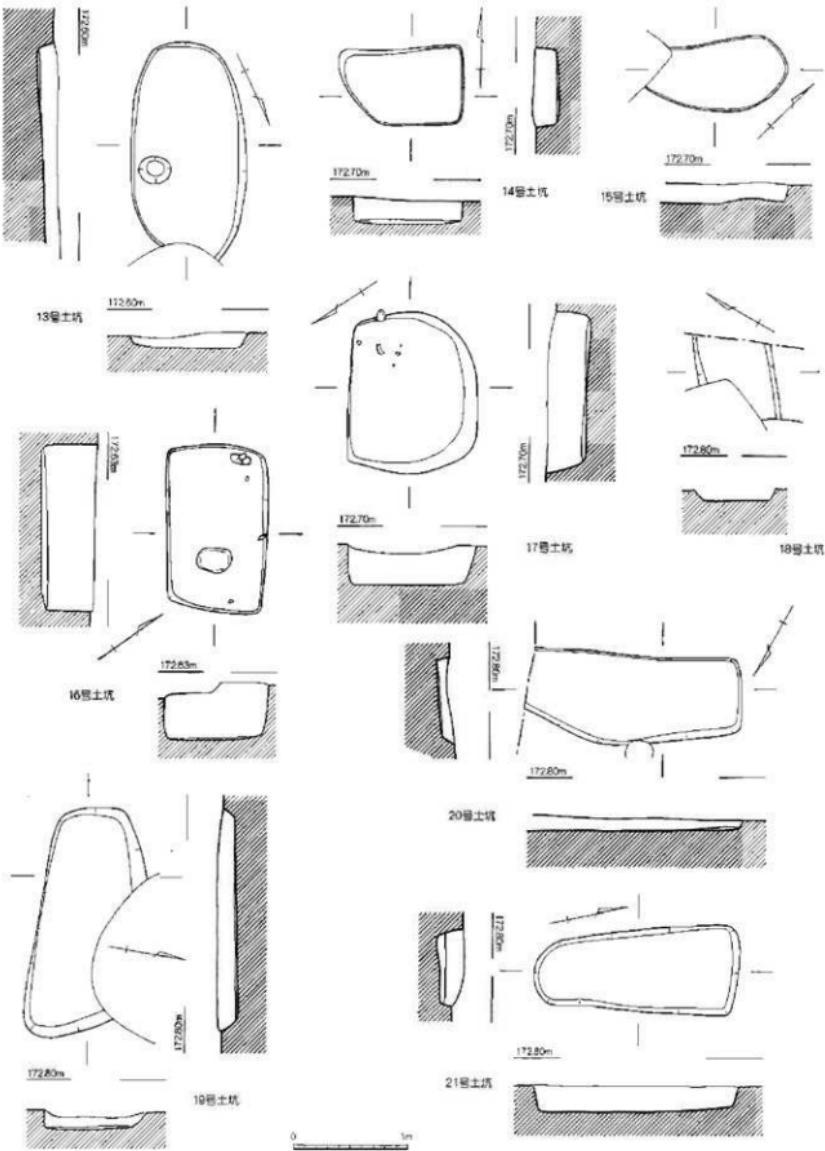
第3図 F区遺構配置図 (1/400)



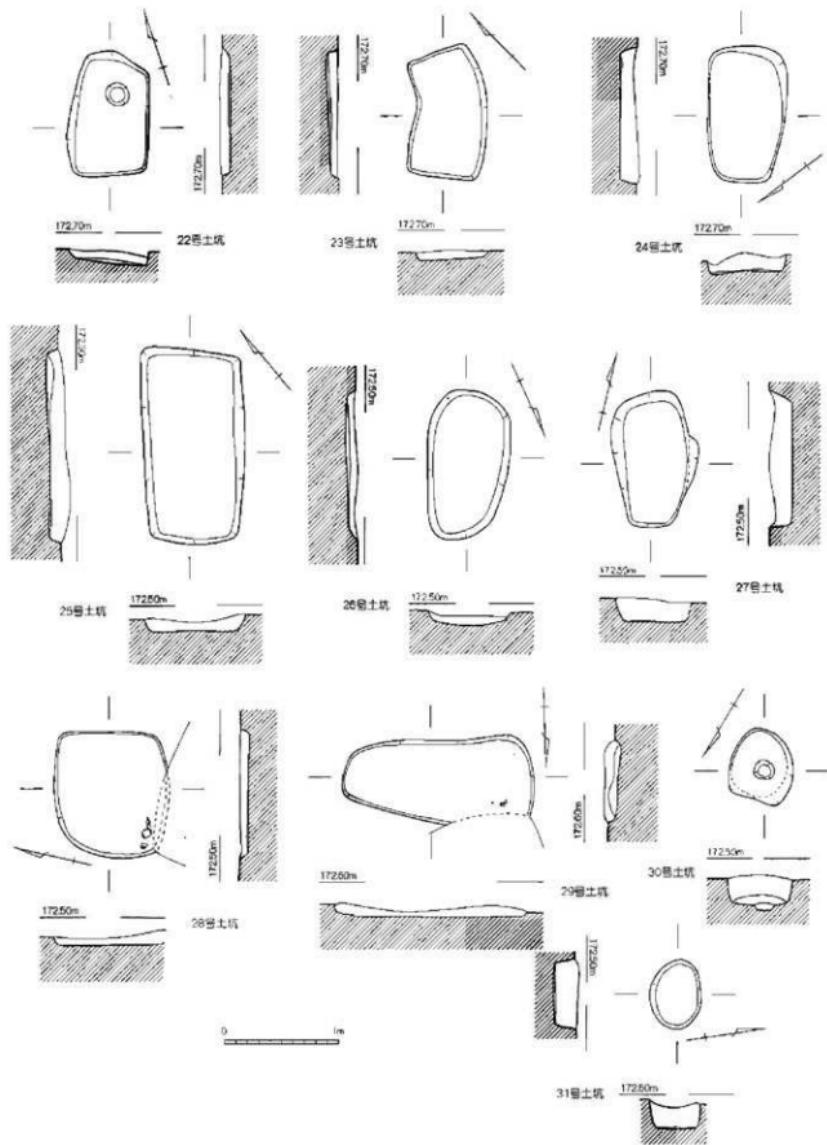
第4図 F区1・2号土坑実測図 (1/40)



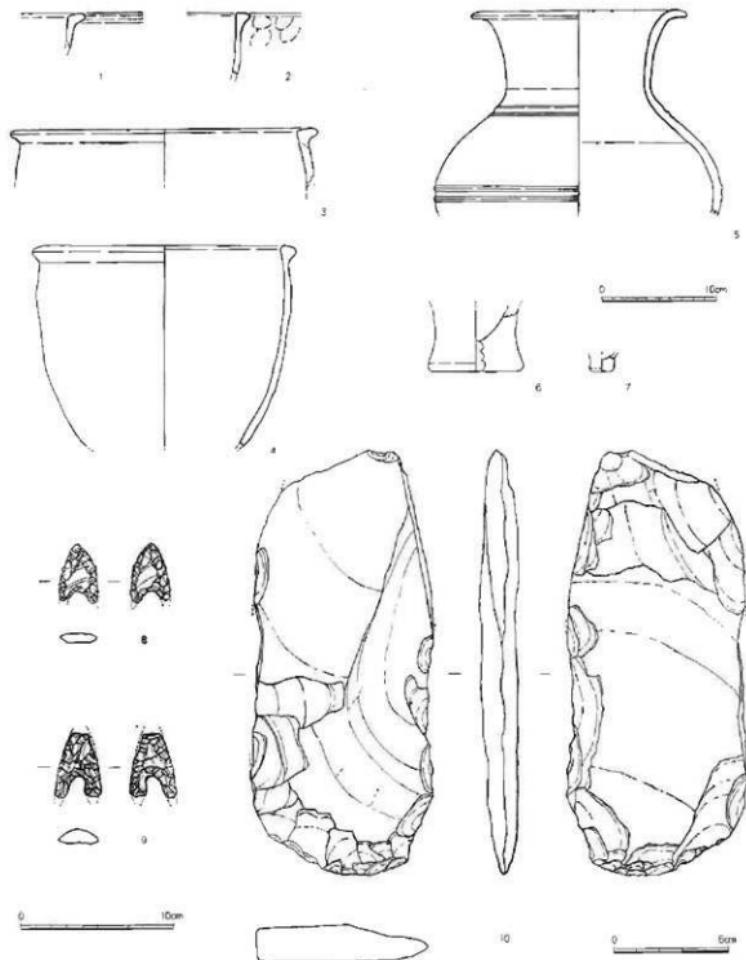
第5図 F区3～12号土坑実測図(1/40)



第6図 F区 13～21号土坑実測図 (1/40)



第7図 F区 22～31号土坑実測図 (1/40)



第8図 F区土坑出土遺物実測図 (1/4・2/3・1/2)

## IV. H区の調査

### (1) 調査の概要(第9図)

H区は、調査開始以前は調査区一帯に畠が営まれていた。機械による表土除去作業では約30～50cmで黄褐色の地山が検出され、弥生時代の遺物とともに各種の遺構が確認された。調査区内での主な遺構の数は全体で堅穴住居3軒、掘立柱建物1棟、土坑10基、溝2条であったが、いずれも削平が著しく、台地上でありながら本來は起伏があったものと想像される。

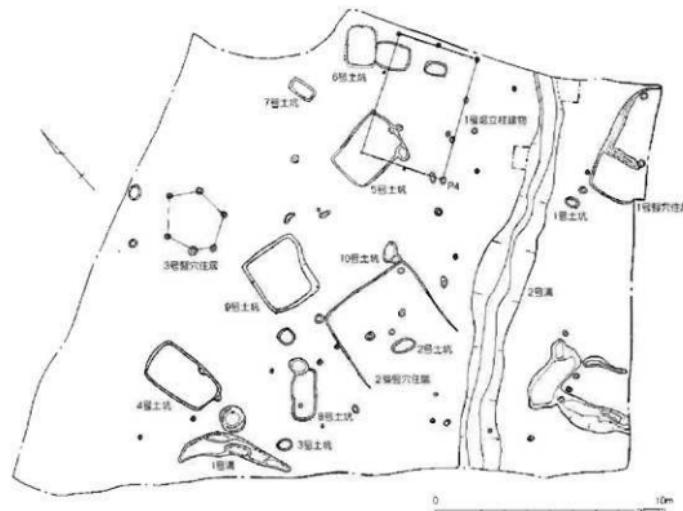
本調査区での発掘調査対象面積は約440m<sup>2</sup>である。以下、遺構ごとに説明を加えることとする。

### (2) 遺構と遺物

#### 堅穴住居

##### 1号堅穴住居(第10図、写真図版5)

調査区東側溝で検出された平面不定形プランを呈する住居である。住居北側コーナー付近は円形に近いカーブを描いているが、西側コーナー付近はほぼ直角に近い角度で屈曲し、2mほど南からは再び直角に近い角度で屈曲する。住居の内側には住居に伴うと考えられる主柱穴が1ヵ所検出され、そのそばから住居壁面に沿って延びる開溝が巡っていた。また、住居の中心よりやや東側の位置には赤褐色に焼成を受けた灰跡が検出された。当初、遺構検出面での形状から2基の住居の切り合いを想定していたが、埋土に明確な切り合い状況が確認できなかったこと、また周溝の



第9図 H区遺構配置図(1/200)

あり方や遺物の出土状況からも切り合いとしては考えがたいことから「軒の住居」と判断した。その場合、住居を区切る位置にある周溝部分より西側については、東側とレベル高がほぼ同じことからベッド状構造ではなく、何らかの付帯施設と思われる。住居の最大長は約5.3m、内部を区切る周溝より東側の壁面までの距離は約3.4mを測る。周溝の幅は約30cm、また炉跡の大きさは約50cm、深さ約3cmを測る。住居内からはまとめて遺物が出土した。

#### 出土遺物(第17・18図、写真図版6)

1～13は脊生土器で、1～12は甕、13は壺である。1は口縁部で断面「逆し字状」を呈する。胴部は口縁部まで直線的に延びる。2は底部で、1と同一個体と考えられる。底面は小ぶりでやや上底状を呈する。3は口縁部で端部は断面「逆三角形状」を呈する。口縁部下に1条沈線が施される。胴部は1と比較しやや膨らむ。4は底部で、3と同一個体と考えられる。底面は2と比較しきり、やや上げ底を呈する。5は口縁部で端部は断面「如意状」を呈する。胴部は3と同様やや膨らむタイプである。6は口縁部で端部は断面「逆三角形状」を呈する。7は厚手の底部で上底状を呈する。8も7と同様の底部である。9はレンズ状を呈するミニチュア土器の底部である。10～12も厚手の底部である。13はやや分厚い壺の底部で胴部は大きく膨らむ。24は2次加工剥片である。黒曜石製。

#### 2号竪穴住居(第17・18図、写真図版5)

調査区中央で検出された平面方形プランを呈する住居である。住居の南側は削平を受けている。住居の内側には主柱穴と考えられるビットが2ヵ所検出された。またこの住居からは炉跡と見られる痕跡は確認できなかった。しかし、1号土坑からは炭・焼土が多量に検出されたことから、これが炉跡であった可能性もある。住居の最大長は壁面が残存している東西方向で約4.5m、深さは最大で約20cmを測る。この住居からは、わずかに遺物が出土したが図示するには至らなかった。

#### 3号竪穴住居(第12図、写真図版5)

調査区西側で検出された住居で、壁面等はほとんど削平され主柱穴のみが残る。主柱穴はいずれも深くしっかりといる。主柱穴の数等から円形住居であったことが推測される。この主柱穴からはわずかに遺物が出土したが、図示するには至らなかった。

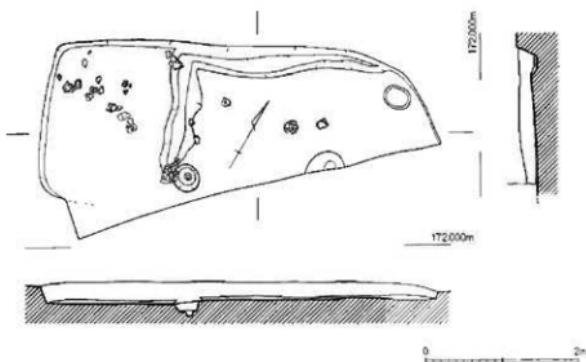
#### 掘立柱建物

##### 1号掘立柱建物(第13図)

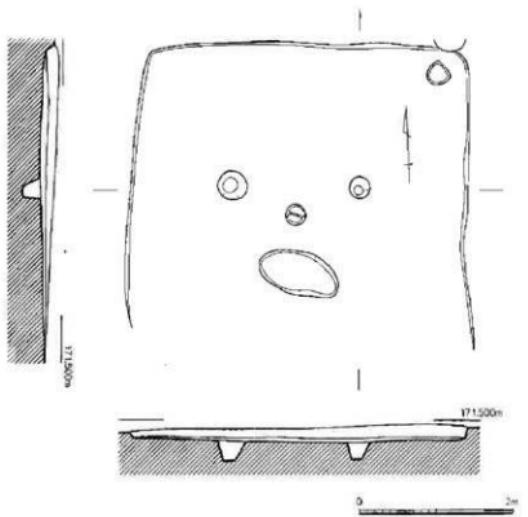
調査区西側で検出された遺物である。2間(約3.7m)×3間(約5.4m)の東西棟の遺物で、柱間平均は梁間約1.8m、桁行約1.8mを測る。柱穴の掘り方は確認面で直径約10cm～30cm、深さは約5cm～35cmを測る。建物の輪方位はN=34°～Eを測る。柱穴からの出土遺物はなかった。

#### 土坑(第14～16図、写真図版5)

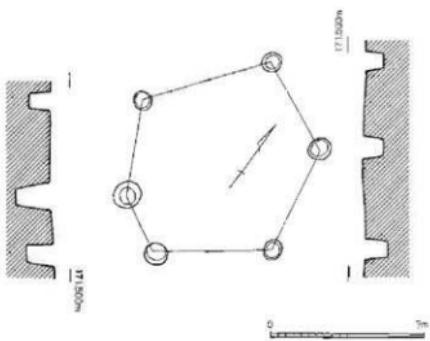
土坑は全部で10基検出された。このうち1号土坑は2号竪穴住居内で検出されており、住居の付属遺構の可能性もある。また、4・5・9号土坑はいずれも隅丸方形プランを呈し、掘り方もしっかりしている。中からはいずれも遺物が出土しており、竪穴の可能性もある。とくに5号からは完全形の甕が内部から出土した。6号土坑は平面隅丸長方形プラン、断面フラスコ状を呈することから貯藏穴の可能性が高い。その他の土坑については、遺構の平面形も不定形であり、深さも浅く、用途については不明である。



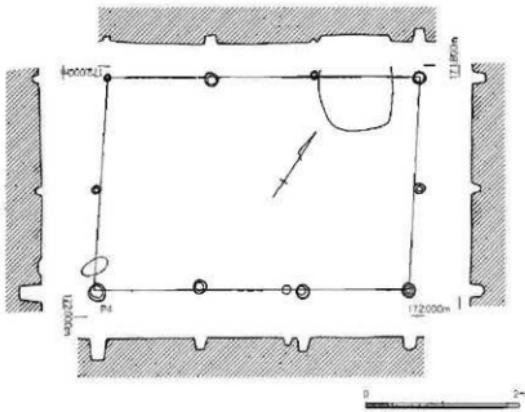
第10図 H区1号竪穴住居実測図(1/60)



第11図 H区2号竪穴住居実測図(1/60)



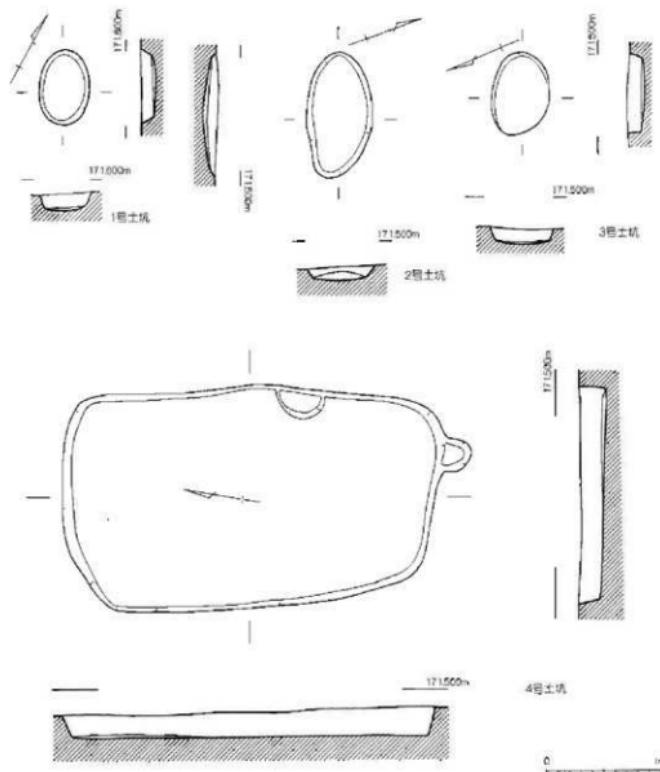
第12図 H区3号整穴住居実測図 (1/60)



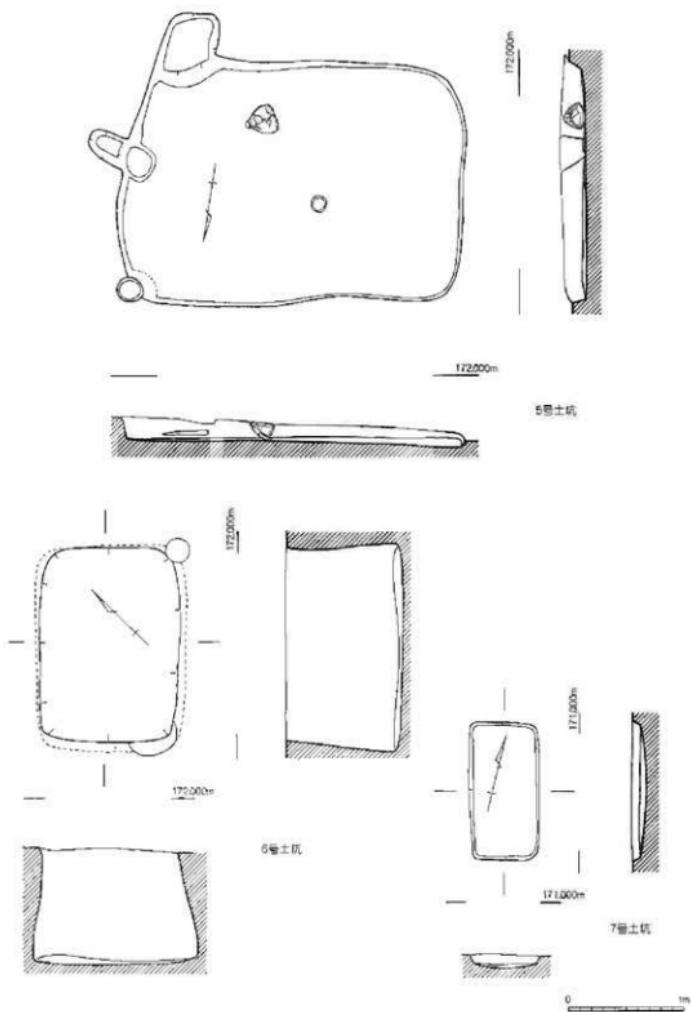
第13図 H区1号掘立柱建物実測図 (1/60)

出土遺物(第17・18図、写真図版6)

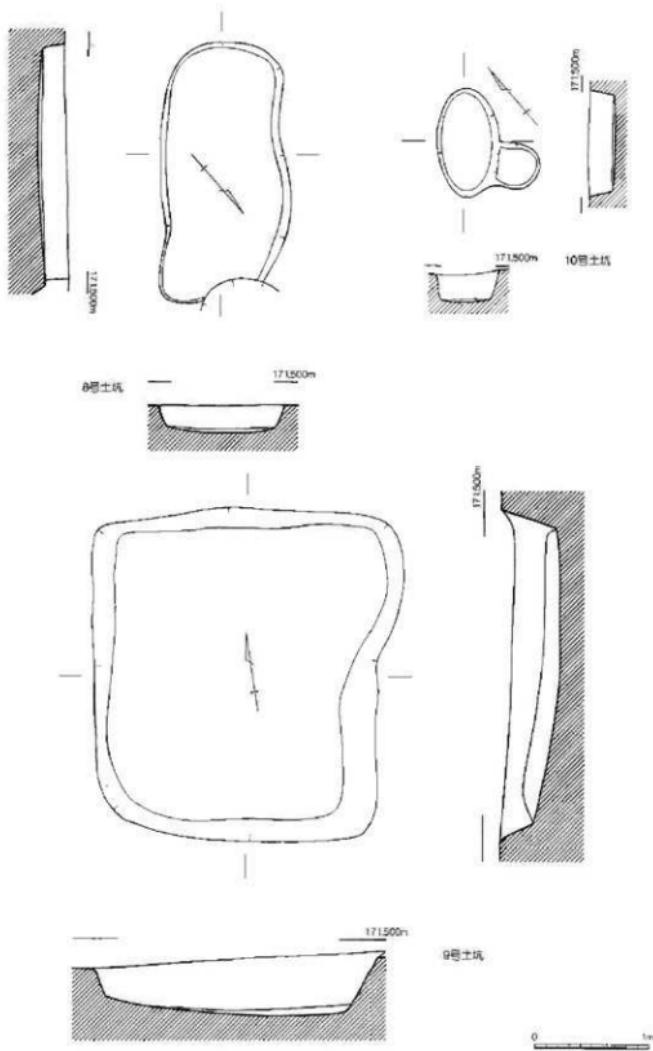
14は弥生土器甌の完形品である。口縁部は「如意状」を呈し、胴部はやや膨らむ。底部は厚くやや上げ底となっている。胴部外面は2次焼成を受け、赤褐色を呈する。15は縄文土器深鉢の口縁部片である。5号土坑出土。16は弥生土器甌口縁部である。断面「逆L字状」を呈する。17は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁部は「くの字状」を呈する。6号土坑出土。18は縄文土器鉢の底部片である。10号土坑出土。19～21は石鏸である。19は6号、20は4号、21は8号土坑出土。22～25は2次加工剥片である。22は6号、23・25は9号土坑出土。27は打製石斧である。6号土坑出土。



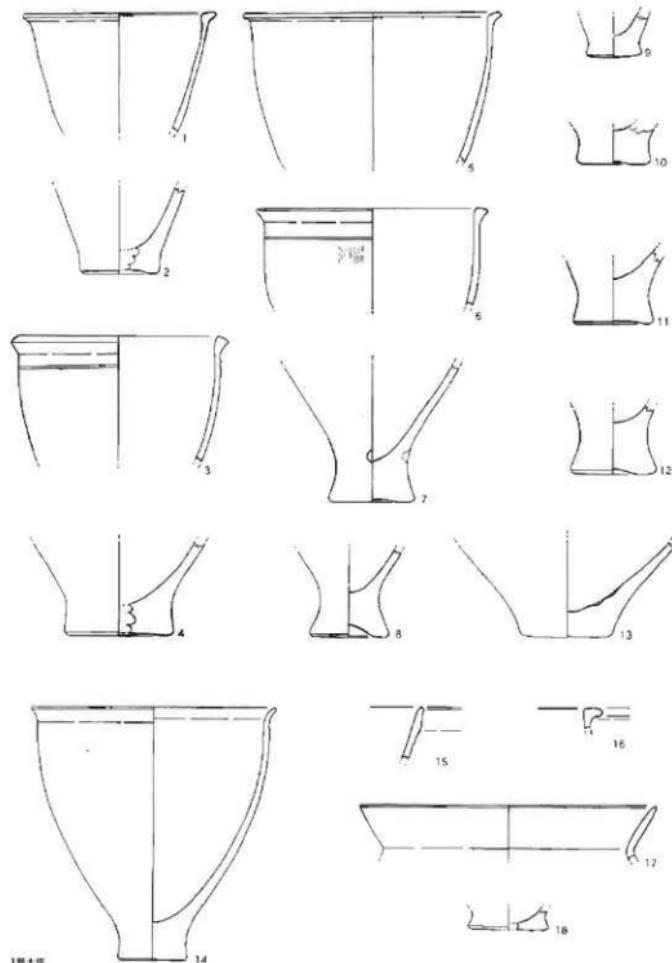
第14図 H区1～4号土坑実測図(1/40)



第15図 H区 5~7号土坑実測図 (1/40)

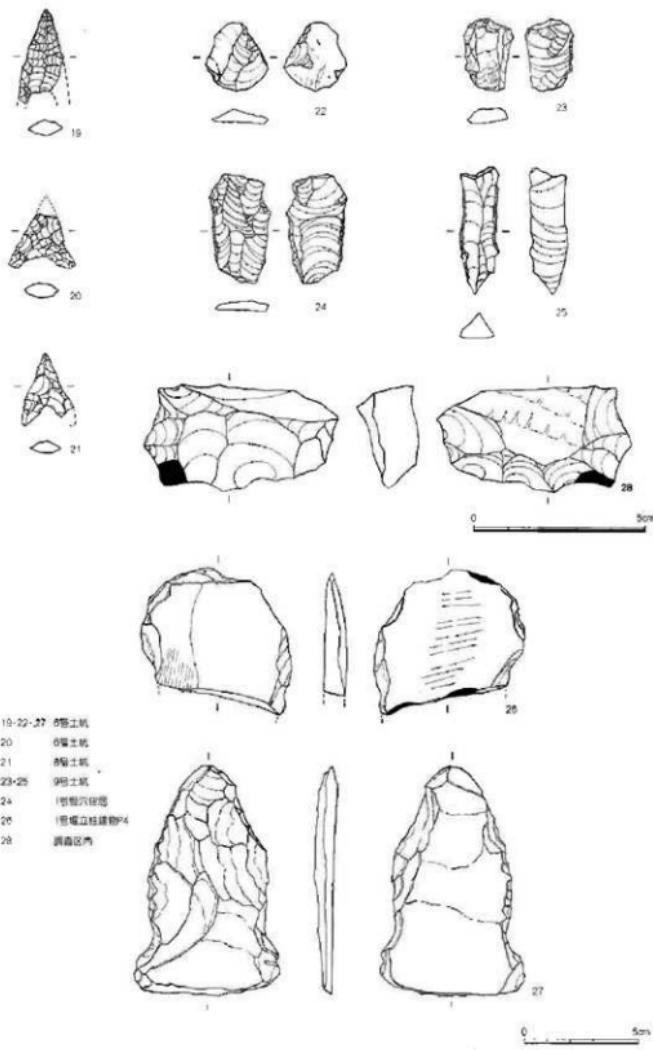


第16図 H区8～10号土坑実測図(1/40)



第17図 H区出土土器実測図(1/4)

1~13 1号土器  
14~15 5号土器  
16~17 6号土器  
18 10号土器



第18図 H区出土石器実測図 (1/2・2/3)

## 溝

### 1号溝（第9図）

この溝は調査区南端で検出された。溝の長さ約4.8m、最大幅約1.1m、深さ約0.6mを測る。この溝からの出土遺物はなく、風倒木痕の可能性もある。

### 2号溝（第9図）

この溝は調査区を南北に縱断するように検出された。確認面での溝の長さ約17.3m、最大幅約2.1m、深さ約0.25mを測る。この溝からは遺物が少量検出されたが図示するには至らなかった。

### その他の遺物（第18図、写真図版6）

26はP4から出土した打製石斧片である。安山岩製。28は調査区内より出土した石核である。サヌカイト製。

### （3）小結

これまで見てきたように、調査区からは竪穴住居をはじめ、各種の遺構や遺物が検出された。ここではこれまでの遺構の時期について整理してみることにしたい。竪穴住居は全部で3軒検出されたが、このうち明確な時期を示す遺物が伴っているのは1号竪穴住居のみである。この住居からは如意形や城ノ越タイプの特徴を持つ甕がまとまって出土しており、時期としては弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。土坑では5号から如意形の口縁部の特徴を持つ甕や6号でも「逆L字状」を呈する口縁部が出土しており、5号は弥生時代前期末から中期初頭、6号は中期初頭から前半の時期の箇跡で収まるものと考えられる。これ以外の遺物として、縄文時代の鉢が5号・6号・10号よりそれぞれ出土している。特徴から縄文時代晚期前半頃と推測される。

これまでの葛原台地での調査では、弥生時代の遺構は確認されていなかったが、今回調査でははじめてこの時期の遺構が確認された。調査区は台地西端の見晴らしのよい場所であり、眼下には弥生時代後期の環濠集落が発見された三和教田遺跡B地点や同じく弥生時代前期から中期にかけての土坑群が発見された三和教田遺跡A地点などがある。吹上台地で発見された吹上遺跡や辻原台地で発見された小追辻原遺跡などは台地の沖積地上でも同時期の集落の存在が確認されおり、台地と沖積地とで何らかの関係性をもちながら展開していく田日地域の集落立地の特性がうかがわれる。

## V. I 区の調査

### (1) 調査の概要 (第 19 図)

I 区は、葛原台地の東端、舌状に張り出した尾根上に位置している。調査では後期旧石器時代・縄文時代早期・同後期の多量の遺物とともに竪穴造構や土坑などの遺構が確認された。

調査面積は約 3,000 m<sup>2</sup>、調査範囲内の標高は約 174 ~ 179 m である。以下、遺構ごとに説明を加えることとする。

### (2) 遺構と遺物

#### 竪穴造構 (第 20 図 図版 7)

竪穴造構は調査区の南端において検出された。造構の西側は削平を受けていたのか、全体のプランは確認出来なかった。段った部分から推測するとやや歪な隅丸方形ないしは円形のプランが考えられようか。なお、造構内の東南よりには方形プランの一級低い部分があり二段掘りとなっている。造構内からは、多くの縄文土器や石器が出土している。

#### 出土遺物 (第 21・22 図 図版 8・9)

1 ~ 12 は浅鉢形土器である。1 ~ 7 は口縁部片である。1 ~ 4 の口縁部内面には 1 条の沈線を巡らしている。さらに 2・3 には沈線の上位に細線羽状文が施されている。5・6 には外傾する口縁部を内側にやや屈曲させ口縁部が形成されている。5 のそこには浅い沈線を 2 条巡らしている。7 は外反する口縁部片である。8 ~ 10 は胴部片である。8 には 2 条の凹線間とその下に細線羽状文がみられる。9・10 ともに 2 条の凹線と凹文が施されている。凹文はいずれも 2 つの圓点によるものであるが、9 の下位の圓点には糸下する凹文が付けられている。11 は口縁部から胴部にかけてのものである。胴部屈曲部の上位には 3 条の凹線と 2 つの圓点による凹文が施されている。やや外反する口縁部の内面には凹線を 1 条巡らしている。なお、内面には赤色顔料の付着がみられる。12 はやや内湾気味に実っ直ぐのびる胴部から、口縁が僅かに外傾気味に立ち上がるるものである。口縁部には 2 条の凹線を巡らしている。

13 ~ 24 は深鉢形土器である。13 ~ 20 は口縁部片である。13 ~ 17 の口縁部内面には 1 条の沈線を巡らしている。20 には焼成後の穿孔がみられる。21・22 は胴部片である。21 の外面上には凹線状に瘤ませたラインにヘラ状工具を当てて施されたような遺迹がみられる。細線羽状文を模した（意識した）ものであろうか。22 の胴部屈曲部の上位には 3 条の凹線を巡らしている。23・24 は口縁から胴部にかけてのものである。23 は口縁部内面に 1 条の沈線を巡らしている。器形的には極く張る胴部から僅かに窄まる頸部を介して緩く外反する口縁部へとつづくものである。24 には胴部の臺りはあまりみられず、僅かに窄まる頸部より外傾する口縁部が大きく彫作されている。

25 ~ 28 は底部片である。いずれも上げ底になるものである。

29 は石器である。基部に抉入のある凹基無基底である。石材は結晶片岩とみられる。

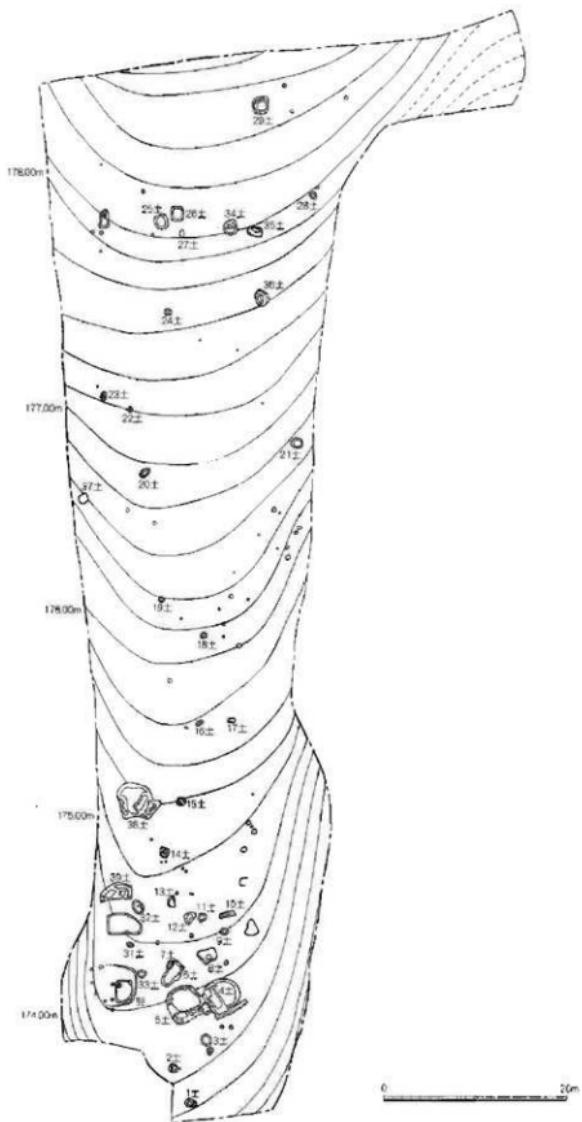
30 は鹿島產黒曜石製のスクレイバーである。

31 は鹿島產黒曜石製の二次加工削片である。両側縁を中心に二次加工がみられる。

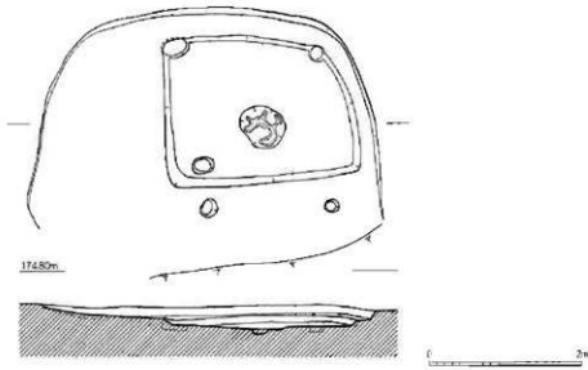
32・33 は鹿島產黒曜石製の使用痕削片である。

#### 土坑 (第 23 ~ 26 図 図版 7)

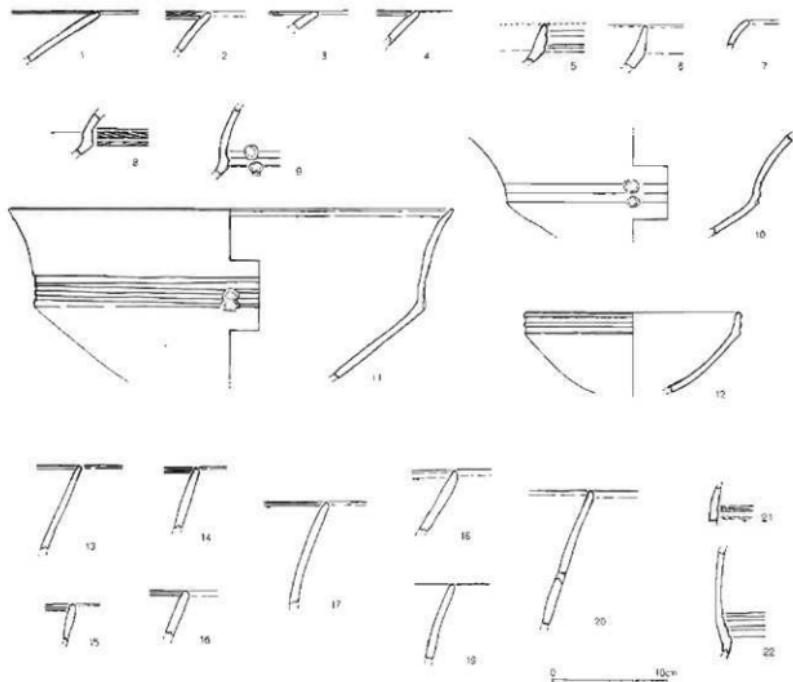
調査では 41 基の土坑が確認されている。それらの平面プランは円形・梢円形・長梢円形・方形・隅丸方形・不整形をなしており、深さも 20 cm から 1 m を超えるものもある。このように規模・形態はまちまちである。これら土坑のうちの半分ぐらいから遺物が出土している。以下に、各土坑からどういったものが出土しているか記すこ



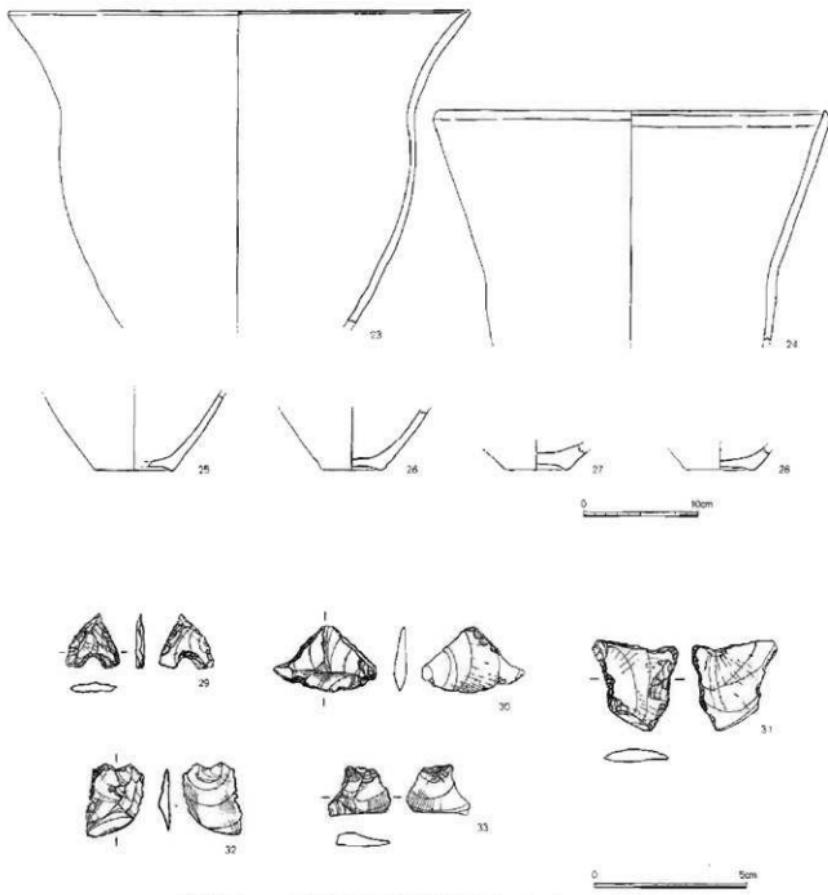
第19図 1区遺構配置図 (1/500)



第20図 I区整穴遺構実測図 (1/60)



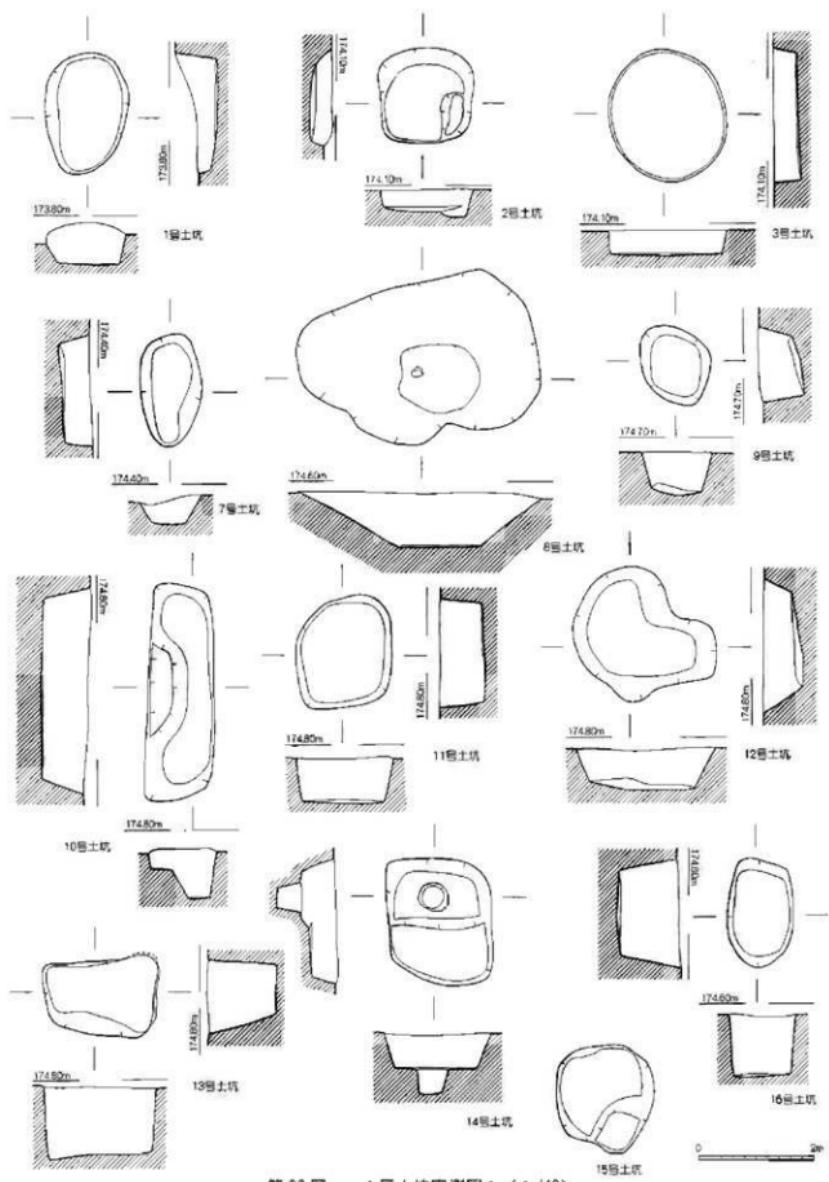
第21図 I区整穴遺構出土遺物実測図 1 (1/4)



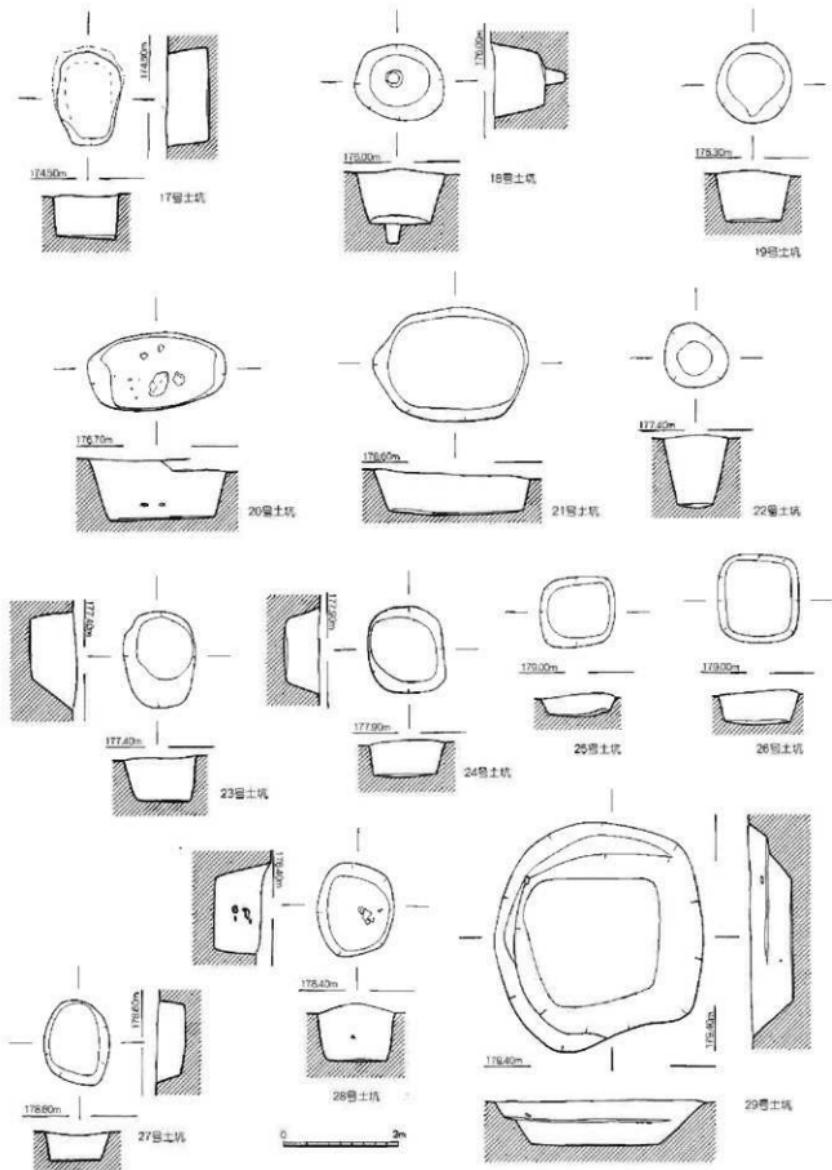
第22図 1区竪穴遺構出土遺物実測図2 (1/4・2/3)

とする。

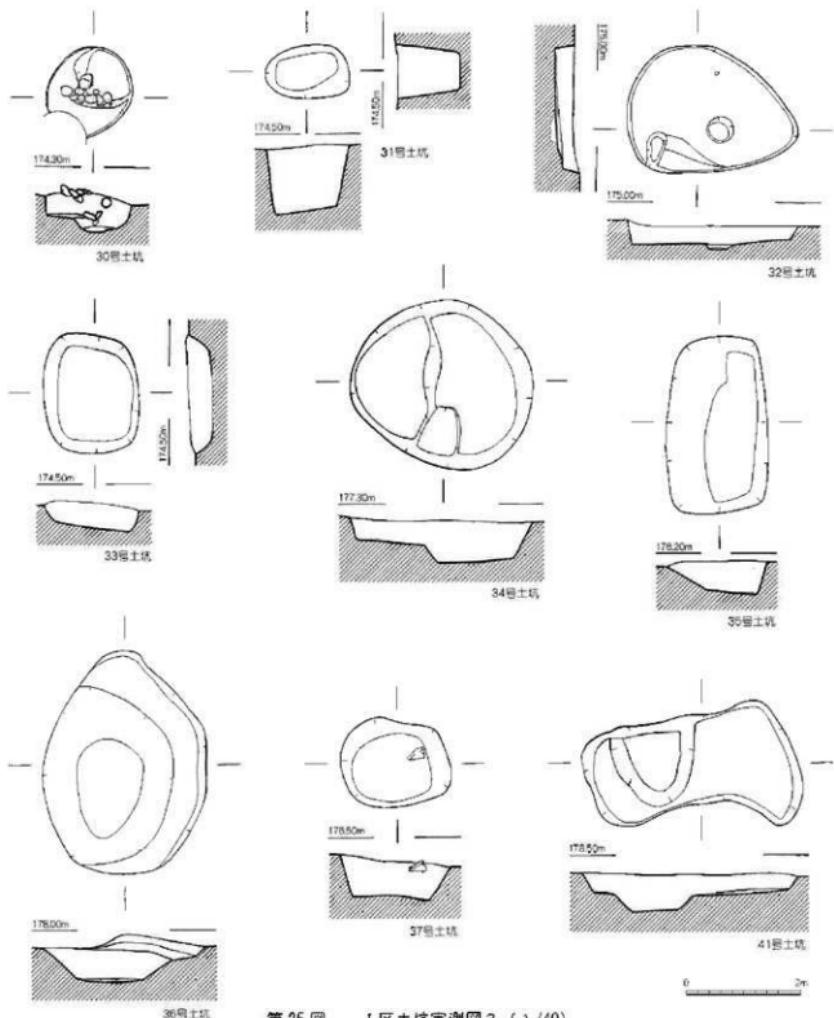
4号土坑からは縄文土器と腰岳系黒曜石やサスカイト製の石器。5号土坑からは縄文時代後・晩期の所産とみられる土器とともに磨製石斧や腰岳系黒曜石製の石器。6号土坑からは腰岳系黒曜石やサスカイト製の石器。15号土坑からは腰岳系黒曜石製の石器。20号土坑からは縄文土器とみられる小片と腰岳系黒曜石製の石器などの石器類。21号土坑からは腰岳系黒曜石製の石器が十数点、22号土坑からは縄文土器とみられる小片と珪質岩とみられる石器や腰岳系黒曜石製の石器。24・25号土坑からは腰岳系黒曜石製の石器。26号土坑からは20点近くの腰



第23図 I区土坑実測図1 (1/40)

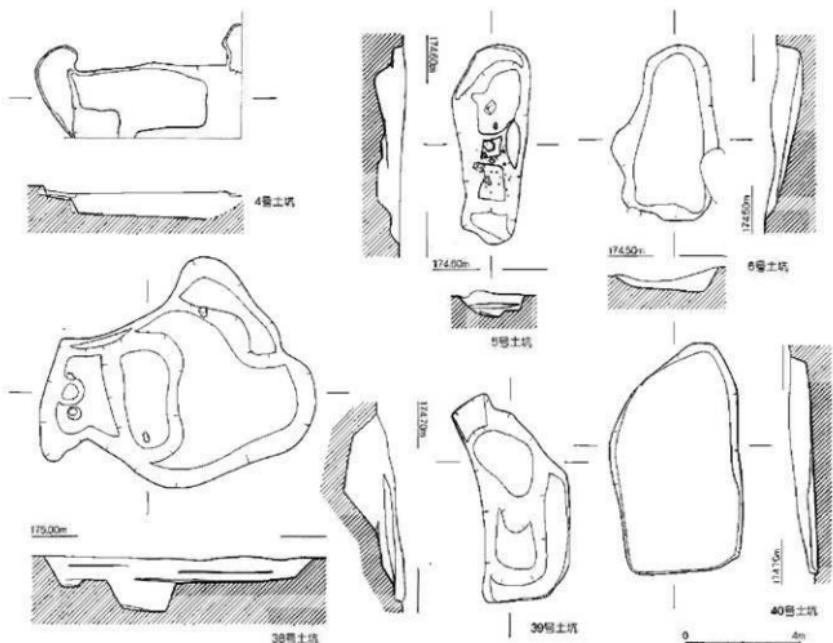


第24図 I区土坑実測図2 (1/40)



第25図 I区土坑実測図3 (1/40)

岳系黒曜石製石器と珪質岩や玻璃質安山岩・サスカイト製の石器、28号土坑は縄文後期後葉の所産とみられる土器と腰岳系黒曜石製の石器。30号土坑からは縄文土器とみられる小片。31・32号土坑からは縄文土器とみられる小片と腰岳系黒曜石製のナイフ形石器などの石器類。



第 26 図 1 区土坑実測図 4 (1/80)

34 号土坑からは 30 点以上の石器類が出土している。石材的にはその殆どが腰岳系黒曜石であるがサヌカイトや安山岩・チャート、そして阿蘇象ヶ鼻産ガラス質溶結凝灰岩製のものなどが含まれている。35・36 号土坑からは腰岳系黒曜石製の石器がそれぞれ十数点。37 号土坑からは腰岳系黒曜石製の石器。38 号土坑からは绳文早期や後・晚期と思われる土器と 10 点の腰岳系黒曜石製石器を中心にサヌカイト製の石器。39 号土坑からは绳文後期後葉とみられる土器と腰岳系黒曜石・サヌカイト製の石器。

40 号土坑からは绳文土器とみられる小片と腰岳系黒曜石製の石器が十数点。41 号土坑からは绳文土器と腰岳系黒曜石製の石器が出土している。

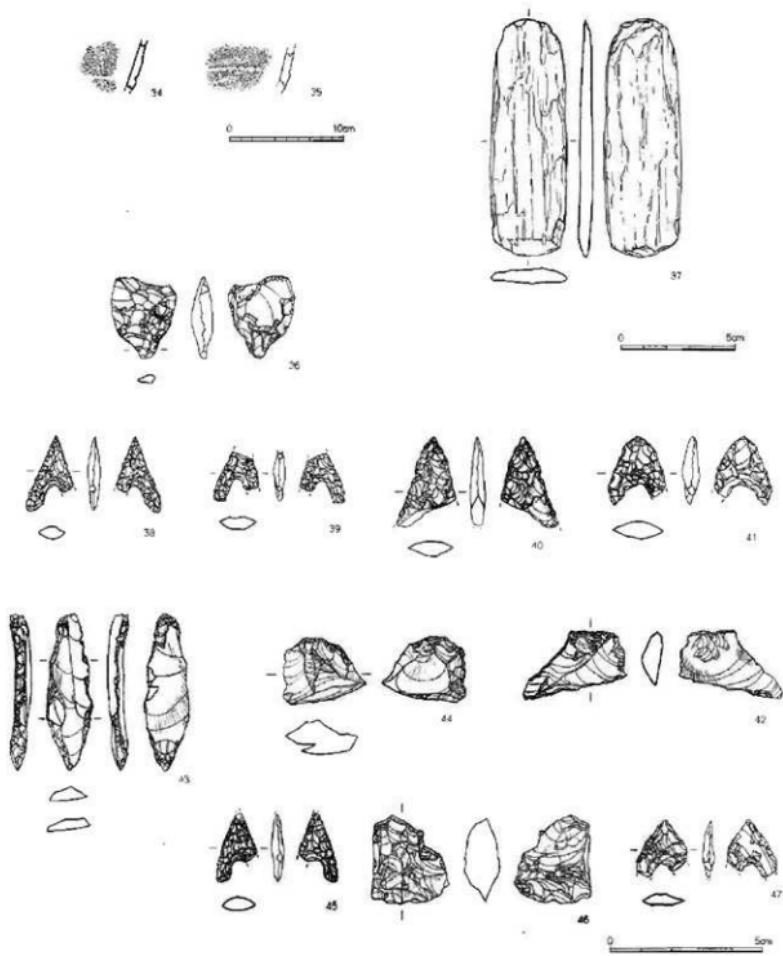
#### 出土遺物（第 27 図 図版 8～10）

34・35 は 28 号土坑出土の绳文土器の銅鋸片である。外面には 1 条の沈線が巡る。同一個体とみられる。

36 は 4 号土坑出土の二次加工剥片である。端部の欠落した石器の抓みの可能性もある。石材は腰岳系黒曜石である。

37 は 5 号土坑出土の磨製石斧である。刃部および側縁に研磨痕を窺うことが出来る。石材は結晶片岩とみられる。

38～41・44・47 は石器である。38～40 は 20 号土坑、41 は 22 号土坑、45 は 34 号土坑、47 は 40 号土坑から

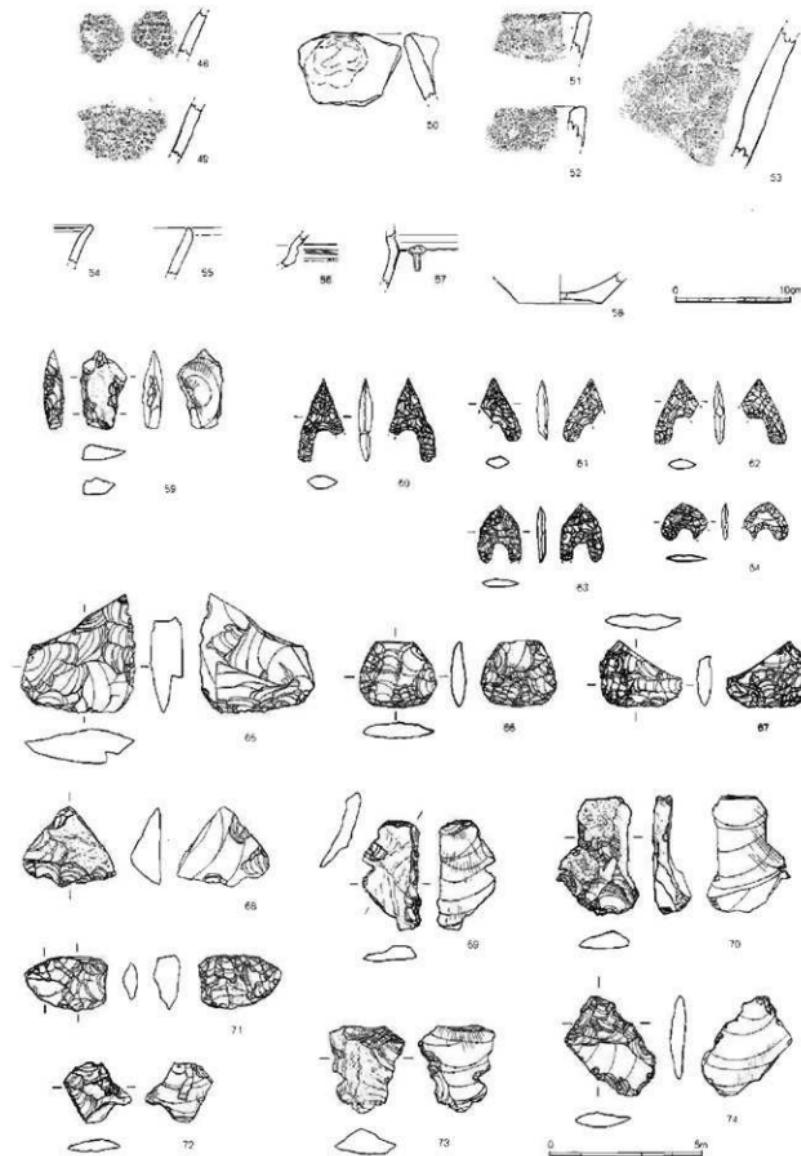


第27図 1区土坑出土遺物実測図 1 (1/4・1/2・2/3)

の出土である。基部の欠落している40以外は、いずれも基部に抉入のある凹基無基盤である。45はいわゆる鉢形鉋である。38・39も基部の抉りが深く独特であることから、同様に鉢形鉋と判断されよう。石材的には38～40・45・47が倭岳系黒曜石製である。41は珪質岩とみられる。

42は22号土坑出土の使用痕剥片である。石材は倭岳系黒曜石製である。

43・44は33号土坑からの出土のものである。

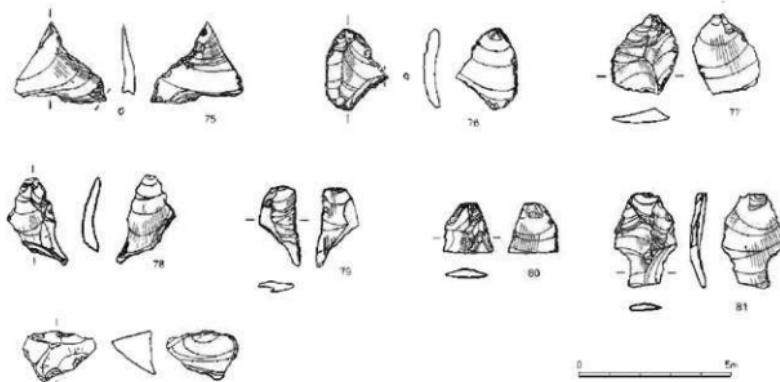


第28図 1区その他の出土遺物実測図1 (1/4・2/3)

43は二側刃加工のナイフ形石器である。縱長剥片を素材としたもので、打面側を先端としている。基部の裏面は平塗剥離により整えられている。石材は腰岳系黒曜石である。後期旧石器時代の所産とみられる。

44は腰岳系黒曜石製の使用痕剥片である。

46は34号土坑出土のスクレイバーである。石材はチャートである。



第29図 その他の出土遺物実測図2 (2/3)

### (3) その他の遺物 (第28・29図 図版8・10)

48～53は早期の所産とみられるものである。

48・49は押型文土器である。48には外面に横円文が、49には連珠文が内外面ともに横走施文されている。50はいわゆる瘤付き土器とみられる。内傾する口縁部にやや大ぶりの瘤状の突起が付けられている。51・52は無文土器の口縁部であろう。53は無文土器の胴部片とみられる。器壁の厚さは、厚いところで2cm弱であり、かなり厚手である。

54～57は後期後葉の三万田式土器である。54・55は深鉢形土器の口縁部片である。51の口縁内面には1条の沈線が遡る。56・57は浅鉢形土器の胴部片である。56には2条の回線間とその下に細線羽状文がみられる。57には2条の回線と凹点により文様が施されている。凹点には垂下する回文が付けられている。

58は上げ底となる底部片である。器形的に後期後葉の所産であろう。

59は腰岳系黒曜石製の台形標石器であり、後期旧石器時代の所産とみられる。

60～64は石砍である。いずれも基部に抉入のある凹基無基砍である。60・62は典型的な歯形砍である。61も基部の抉りや脚跡のつくりなどから、同様に歯形砍と判断されよう。63は側縁に屈曲する箇所があり、平面形が五角形を呈するものである。抉りは深い。石材的には、いずれも腰岳系黒曜石製である。

65～69はスクレイバーである。69はサイドスクレイバーである。いずれも腰岳系黒曜石製である。

70～74は二次加工剥片である。いずれも石材は腰岳系黒曜石である。

75～82は使用痕剥片である。いずれも石材は腰岳系黒曜石である。75・76には錐状に突出した刃部かと思われる突起状の部位が認められる。

#### (4) 小結

1区の調査では、多くの縄文土器や石器などの遺物とともに、竪穴造構や土坑などの遺構が確認された。

この調査で特に注目されるのは、竪穴造構からの出土遺物である。多量に出土した土器は、その器形はもちろん、間線や細縫羽状文など文様の属性などから、いわゆる三万田式土器の範疇に収まるものであり、縄文時代後期後葉に当たられる。文様を有さないものや底部片においても、その器形や形態などから同期のものとみて間違いないであろう。

日田市およびその周辺において、いわゆる三万田式土器は各所でその出土がみられる。資料的にまとまって出土した遺跡としては、土偶が複数出土したことでも知られる三和敷田遺跡（註1）が挙げられる。しかしここでは、縄文時代後期の遺物は溝状造構や自然流路からの出土であり、三万田式土器以後の後期末葉の遺物も含まれており、時期幅が広く一時期のセット関係を把握することなどは出来ていないようだ。

ここで、改めて葛原遺跡1区の竪穴造構出土土器をみてみると、浅鉢形土器・深鉢形土器それぞれに属性的にまとまりが窺え、一時期の良好なセットとして捉えることが出来る。大分県における（大野川中流域を中心とした）三万田式土器の編年は、塩田期→駒方期→内河野期（1号住→2号住→3号住）一生野期→池在期→夏尾原期の変遷が提示されている（註2）。葛原1区竪穴造構の資料は、口縁部の形状など多少の相違はあるものの、それらが持つ属性のあり方などから内河野2号住資料との類似が看取されることから、内河野期と並行する良好なセット資料と言えよう。

筑後川上流域では、この時期のまとまった良好な資料はあまり無いことから、今後基準となる資料となろう。また、北方に位置する周防灘沿岸の三万田式土器とも器面調整の面等で相違点があり、今後当該期の地域性を考えいく上でも良好な資料を得たと言えよう。

次に注目されるものとして、多くの出土をみた石器とその石材環境が挙げられる。

調査区内からは、全体で380点の石器が検出されているが、その九割以上の348点が腰岳系黒曜石製のものである。続いて14点のサヌカイト製、4点の姫島産黒曜石製のものの類となる。他の石材はそれぞれ1～3点となる。この中に阿蘇象ヶ鼻産ガラス質溶結凝灰岩製のものが1点含まれていることは興味深い。なお、これら石器類の中に西北九州産の腰岳系黒曜石が九割以上を占めるのに反して、近隣において産する小国産黒曜石は1点も見られない。

上記のような石器石材の状況は、縄文時代後期後葉の竪穴造構のみをみても大きく変わらない。これまでに見てきたように、調査区内においては縄文時代後期後葉以外に後期旧石器時代と縄文時代早期の遺跡が確認されているが、竪穴造構以外の361点の石器をすべて時期別に分離することは出来ない。ただ、いずれにしても本遺跡地での腰岳系黒曜石の利用度の高さは、各時代を通して変わらないと想定され、今後遺跡の立地を考える上で非常に興味深い。

#### 註

1) 吉田博嗣 編『三和敷田遺跡C地点』大分県文化財調査報告書第98輯 大分県教育委員会 1997

2) 後藤一重 編『野津川流域の遺跡VI 内河野遺跡』野津町教育委員会 1985

## VII. まとめ

今回報告した調査内容は、記述してきたとおり3ヶ所の調査区において後期旧石器・縄文時代後期・弥生時代前期～中期の遺構や遺物を確認したことになる。

そもそも、この葛原遺跡では、早くから黒曜石製の石器が採集されてきており、以前までは“柴尾遺跡”という名称で、ナイフ形石器や細石器を作り時期の遺跡として周知されてきた（註1）。このことを裏付けるかのように、これまで報告してきた各区においても数多くの石器が発見され、なかでもI区ではナイフ形石器など後期旧石器時代に相当する遺物が確認され、本遺跡が盆地周辺部にあって当該期の様相を知る上での重要な遺跡であることを証明した。しかしながら、他の吹上・小追辻原・上野第一遺跡といった盆地周辺部の遺跡と同様に層位的な位置づけや、空間的なまとまり、さらには遺構の存在有無などの検証までには至ってはおらず、こうした点を考慮した調査・検討がこれからの大きな課題であろう。

I区での縄文時代後期の堅穴遺構は注目に値する。すでに、隣接する葛原遺跡J区の調査（註2）においても縄文時代と考えられる堅穴遺構が検出され、さらには葛原遺跡A区（註3）などでは土坑の存在も確認されているなど、台地上に縄文時代後期の集落が営まれていたことが判明した。このように縄文時代の遺構が検出された日田市内での事例としては、手崎遺跡（註4）・尾部田遺跡（註5）・求来里平島遺跡（註6）などが知られているが、その数は少ない。しかも、こうした遺跡はどちらかといえば河岸段丘や台地下といった沖積地に営まれており、本遺跡のように台地（丘陵）上に立地する例としては希で、これからの日田盆地における該期の縄文集落の実像を考える意味では貴重な資料を提示したといえる。

このほか、弥生時代の遺構も発見されている。昭和61年に実施した葛原遺跡の確認調査では、台地南側（第2図 XI～XIII）において弥生時代の遺構や遺物が確認され、この時期の遺構が存在することは明らかであった。今回のF・H区での堅穴住居や土坑は、前期末から中期前半に該当し、これまで確認されていた時期と同時期の遺構でもあり、台地縁辺部を中心にこの時期の集落が存在することをあらためて認識することができた。

### 註

- 1) 吉留 秀敏 「第3節 大分の旧石器時代遺跡 6 筑後川上流域」『大分県史』大分県 1983年
- 2) 渡邊 隆行編 『葛原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第39集 日田市教育委員会 2002年
- 3) 土居 和幸編 『葛原遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第53集 日田市教育委員会 2004年
- 4) 田中裕介他編 『日田市高瀬遺跡群の調査2』一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II 大分県教育委員会 1998年
- 5) 行時 志郎編 『尾部田遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第34集 日田市教育委員会 2001年
- 6) 土居 和幸編 『求来里平島遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第38集 日田市教育委員会 2002年

第1表 壁穴住居・壁穴遺構観察表

辨認番号	区名	遺構名	平面形	規 模			内部構造				備 考
				長軸長	短軸長	深さ	床面積	主柱穴	カマド位置	屋内土坑	
第10回	H区	1号住	不定形	5.3m + α	2.6m + α	30cm	22.23m <sup>2</sup>	-	-	-	-
第11回	H区	2号住	方形	4.5m	4.2m + α	15cm	-	2本	-	-	-
第12回	H区	3号住 (円形)	直径 2.5m	半径 2.4m	-	-	-	6本	-	-	-
第20回	I区	壁穴遺構	不整形	4.6m	3.4m + α	36cm	-	-	-	-	田 1号住居

※柱間

第2表 掘立柱建物観察表

辨認番号	区名	遺構名	規模	梁間長	桁行長	柱間平均 (梁間)	柱穴離方	柱穴の深さ	備考	
									2間×3間	3.7m
第13回	E区	E号掘立柱建物	2間×3間	3.7m	5.4m	1.85m	15~30cm	15~35cm	方位は N-34° -E	

第3表 土坑観察表

辨認番号	区名	遺構名	部状	規 模			出土遺物			備 考
				長軸長	短軸長	深さ	生土層 (甕・壺)、石器 (調片)	生土層片	生土層 (甕)	
第4回	EIK	1号土坑	円形	163	163	40	生土層 (甕・壺)、石器 (調片)	-	-	
第4回	EIK	2号土坑	不整形	110	77	26	生土層片	-	-	
第5回	EIK	3号土坑	長方形	132	56	15	生土層片、石器 (調片)	-	-	
第5回	EIK	4号土坑	-	(120)	98	(36)	生土層片	5~8号毛切石	-	
第5回	EIK	5号土坑	不整形	(208)	(78)	(12)	生土層片	6号毛切石	-	
第5回	EIK	6号土坑	長方形	193	(90)	22	生土層片	-	-	
第5回	EIK	7号土坑	不整形	114	68	19	なし	8号毛切石	-	
第5回	EIK	8号土坑	-	-	(54)	(15)	なし	-	-	
第5回	EIK	9号土坑	不整形	138	65	15	なし	-	-	
第5回	EIK	10号土坑	不整形	74	50	19	なし	-	-	
第5回	EIK	11号土坑	不整形	55	50	9	なし	-	-	
第5回	EIK	12号土坑	不整形	128	68	19	生土層片	13号毛切石	-	
第6回	EIK	13号土坑	楕円形	(188)	100	14	生土層 (甕)	-	-	
第6回	EIK	14号土坑	不整形	105	68	21	なし	15号毛切石	-	
第6回	EIK	15号土坑	不整形	(108)	(56)	(21)	なし	-	-	
第6回	EIK	16号土坑	長方形	143	89	39	生土層片、石器 (打製石斧、調片)	-	-	
第6回	EIK	17号土坑	不整形	139	112	34	生土層 (甕)、石器 (石斧、石錐、調片)	18~19号毛切石	-	
第6回	EIK	18号土坑	-	-	(66)	(9)	なし	-	-	
第6回	EIK	19号土坑	不整形	190	(88)	(15)	生土層 (甕)	-	-	
第6回	EIK	20号土坑	不整形	(190)	77	(13)	なし	-	-	
第6回	EIK	21号土坑	長方形	179	78	22	生土層片	-	-	
第7回	EIK	22号土坑	長方形	109	79	11	なし	-	-	
第7回	EIK	23号土坑	不整形	119	69	10	なし	-	-	
第7回	EIK	24号土坑	長方形	117	74	16	なし	-	-	
第7回	EIK	25号土坑	長方形	169	87	13	なし	-	-	
第7回	EIK	26号土坑	楕円形	130	70	9	なし	-	-	
第7回	EIK	27号土坑	長方形	116	69	16	なし	-	-	
第7回	EIK	28号土坑	長方形	109	(90)	14	生土層 (甕)	29号毛切石	-	
第7回	EIK	29号土坑	長方形	165	(71)	13	生土層 (甕空)	-	-	
第7回	EIK	30号土坑	不整形	61	53	19	なし	-	-	
第7回	EIK	31号土坑	楕円形	60	45	24	なし	-	-	
第14回	HIK	1号土坑	楕円形	65	45	16	なし	2号住居付箆塙構の可能性あり	-	
第14回	HIK	2号土坑	楕円形	110	60	12	なし	-	-	
第14回	HIK	3号土坑	楕円形	70	50	15	なし	-	-	
第14回	HIK	4号土坑	楕丸長方形	330	190	24	石器	壁穴の可能性あり	-	
第15回	HIK	5号土坑	楕丸長方形	305	210	20	生土層 (甕)	壁穴の可能性あり	-	
第15回	HIK	6号土坑	楕丸長方形	170	125	100	生土層 (甕)、興文土器 (鉢)、石器、打製石斧	袋狀的墓穴	-	
第15回	HIK	7号土坑	長方形	120	60	18	なし	-	-	
第16回	HIK	8号土坑	不整形	225	110	22	石器	-	-	
第16回	HIK	9号土坑	楕丸長方形	200	205	48	2次加工調片	壁穴の可能性あり	-	

第16回	IJK	10号土坑	楕円形	95	55	25	調査部(鉢)		
第23回	IJK	1号土坑	不整形	104	72	36	なし		
第23回	IJK	2号土坑	楕丸形	82	82	24	なし		
第23回	IJK	3号土坑	円形	113	102	24	なし		
第26回	IJK	4号土坑	不整形	360+α	200+α	45	調査土器、石器		
第26回	IJK	5号土坑	不整形	345	140	55	調査土器、石器		
第26回	IJK	6号土坑	不整形	300	190	50	石器		
第23回	IJK	7号土坑	長椭円形	96	54	26	なし		
第23回	IJK	8号土坑	不整形	208	140	47	なし		
第23回	IJK	9号土坑	不整形	66	61	37	なし		
第23回	IJK	10号土坑	不整形	186	60	42	なし		
第23回	IJK	11号土坑	不整形	94	84	42	なし		
第23回	IJK	12号土坑	不整形	123	116	36	なし		
第23回	IJK	13号土坑	不整形	100	71	64	なし		
第23回	IJK	14号土坑	方形	107	92	52	なし		
第23回	IJK	15号土坑	円形	94	84	—	石器		
第23回	IJK	16号土坑	楕円形	92	58	55	なし		
第24回	IJK	17号土坑	不整形	82	54	39	なし		
第24回	IJK	18号土坑	楕円形	76	65	63	なし		
第24回	IJK	19号土坑	円形	68	66	44	なし		
第24回	IJK	20号土坑	長椭円形	120	65	53	調査土器、石器		
第24回	IJK	21号土坑	楕丸形	134	100	39	石器		
第24回	IJK	22号土坑	円形	56	56	64	調査土器、石器		
第24回	IJK	23号土坑	楕丸形	84	64	40	なし		
第24回	IJK	24号土坑	楕丸形	76	65	32	石器		
第24回	IJK	25号土坑	楕丸形	65	60	20	石器		
第24回	IJK	26号土坑	楕丸形	75	71	28	石器		
第24回	IJK	27号土坑	楕円形	72	56	26	なし		
第24回	IJK	28号土坑	楕円形	80	67	49	調査土器、石器		
第24回	IJK	29号土坑	不整形	194	182	38	なし		
第25回	IJK	30号土坑	楕円形	89	74	32	調査土器		
第25回	IJK	31号土坑	長椭円形	72	46	56	調査土器、石器		
第25回	IJK	32号土坑	不整形	148	110	25	調査土器、石器		
第25回	IJK	33号土坑	楕丸形	103	82	22	調査土器、石器		
第25回	IJK	34号土坑	楕円形	156	147	52	石器		
第25回	IJK	35号土坑	不整形	152	88	28	石器		
第25回	IJK	36号土坑	楕円形	192	143	49	石器		
第25回	IJK	37号土坑	不整形	94	77	36	石器		
第26回	IJK	38号土坑	不整形	495	395	107	調査土器、石器		
第26回	IJK	39号土坑	不整形	355	155	95	調査土器、石器		
第26回	IJK	40号土坑	不整形	395	225	38	調査土器、石器		
第26回	IJK	41号土坑	不整形	186	97	32	調査土器、石器		

底面の単位はcm。( )書きは、残存を表す。土層は、一層のもの場合を記載している。

第4表 溝観察表

溝番号	区名	遺構名	規 模			備 考			
			長軸長	短軸長	深さ				
第9回	H区	1号溝	4.8 m	1.1 m	60 cm				
第9回	H区	2号溝	17.3 m	2.1 m	25 cm				

第5表 出土土器観察表

標印番号	区名	遺構名	種別	器種	法 量		調 整		新 土	焼成	色 调		備 考	
					口径	脚距離	底径	脚高	外面	内面	外面	内面		
第8回1	F区	19号	灰土	甕	—	—	—	(3.1)	網毛後ナゲ	ナゲ	ADEH	やや不良	暗黄褐色	黄褐色
第8回2	F区	17号	灰土	甕	—	—	—	(5.4)	ナゲ	ナゲ	ADEH	不良	暗黄褐色	暗黄褐色

第8回3	EIK	1土	男生	黒	(26.0)	-	-	(0.5)	ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	黄褐色	黄褐色		
第8回4	EIK	1土	男生	黒	(23.0)	-	-	(17.2)	ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	赤褐色	明黄褐色		
第8回5	EIK	1土	男生	黒	(19.0)	-	-	(13.0)	不明	不明	AIE33	不良	黄褐色	黄褐色		
第8回6	EIK	13土	男生	黒	-	-	-	(0.2)	(5.4)	不明	不明	AIE33	中中不良	黄褐色	暗褐色	
第8回7	EIK	17土	男生	〔シルバア	-	-	-	(2.1)	(1.3)	雨押シ	雨押シ	AIE33	良	暗褐色	暗褐色	
第17回1	EIK	1日-8	男生	黒	(17.0)	-	-	-	(16.4)	不明	不明	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回2	EIK	1日-7	男生	黒	-	-	-	(6.0)	(7.6)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回3	EIK	1日-2	男生	黒	19.0	-	-	-	(16.9)	不明	不明	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回4	EIK	1日-1	男生	黒	-	-	-	(0.5)	(0.6)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回5	EIK	1日-7	男生	黒	(22.0)	-	-	-	(13.0)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回6	EIK	1日-11	男生	黒	(26.2)	-	-	-	(8.0)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	中中不良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回7	EIK	1日-19	男生	黒	-	-	-	7.5	(11.9)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	良	暗褐色	暗褐色	2上同一個体の可能性あり
第17回8	EIK	1日-3	男生	黒	-	-	-	6.8	(7.7)	ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	
第17回9	EIK	1日-6	男生	黒	-	-	-	4.8	(3.0)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	
第17回10	EIK	1日-14	男生	黒	-	-	-	6.4	(3.4)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	
第17回11	EIK	1日-18	男生	黒	-	-	-	7.0	(6.5)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	中中不良	暗褐色	暗褐色	
第17回12	EIK	1日-17	男生	黒	-	-	-	7.4	(0.0)	不明	不明	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	
第17回13	EIK	1日-19	男生	黒	-	-	-	7.8	(3.3)	刷毛後ナゲ	ナゲ	AIE33	良	暗褐色	暗褐色	
第17回14	EIK	1日-1	男生	黒	(21.4)	-	-	6.0	21.7	不明	不明	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	
第17回15	EIK	5土	調文	西絨	-	-	-	(0.6)	不明	不明	AIE33	不良	暗黑色	暗黑色		
第17回16	EIK	6土-1上締	男生	黒	-	-	-	(1.0)	不明	不明	AIE33	良	暗黑色	暗黑色		
第17回17	EIK	6土-1下締	調文	西絨	(25.8)	-	-	-	(4.0)	不明	不明	AIE33	不良	暗褐色	暗褐色	2締縫部に暗褐色あり
第17回18	EIK	10土	調文	西絨	-	-	-	(7.0)	(1.0)	不明	不明	AIE33	中中不良	暗褐色	暗褐色	
第21回1	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ小	ACC	良	系色	系色	
第21回2	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ	直織後ナゲ	ACC	良	黑褐色	暗黑色	織織羽伏文かわ
第21回3	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ	直織後ナゲ	ACC	良	明黄色	明黄色	織織羽伏文かわ
第21回4	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	直織後ナゲ	ACC	良	暗褐色	暗褐色	
第21回5	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ	ACC	良	暗褐色	暗褐色	
第21回6	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	不明顯	ACC	良	暗系色	暗系色	
第21回7	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ	不明顯	ACC	良	暗褐色	暗褐色	
第21回8	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ	ACC	良	暗褐色	明黄色	織織羽伏文かわ
第21回9	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ小	ACC	良	暗褐色	暗褐色	
第21回10	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ小	ACC	良	暗黑色	系色	
第21回11	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	直織後ナゲ	ACC	良	濃黃褐色	濃黃褐色	内面非色糸糸付番付
第21回12	EIK	1住	調文	西絨	18.3	-	-	-	-	直織後ナゲ	直織後ナゲ	ACC	良	暗褐色	暗褐色	
第21回13	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ	ACC	良	不明顯	明黄色	
第21回14	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ	ACC	良	明黑色	淡黄色	
第21回15	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	直織後ナゲ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	
第21回16	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ	不明顯	ACC	良	淡系色	淡系色	
第21回17	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ	直織後ナゲ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	
第21回18	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	七ガホ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	
第21回19	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	七ガホ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	
第21回20	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	七ガホ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	
第21回21	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	七ガホ小	七ガホ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	施用後の差し色あり
第21回22	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	七ガホ	ACC	良	淡黄色	淡黄色	
第22回23	EIK	1住	調文	西絨	20.7	21.0	-	-	-	直織後ナゲ	直織後ナゲ	ACC	良	黄褐色	黄褐色	
第22回24	EIK	1住	調文	西絨	32.5	25.1	-	-	-	直織後ナゲ	直織後ナゲ	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第22回25	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	6.7	-	七ガホ	七ガホ	ACC	良	灰褐色	系色	
第22回26	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	5.2	-	七ガホ	七ガホ	ACC	良	灰褐色	灰褐色	
第22回27	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	5.3	-	七ガホ	七ガホ	ACC	良	淡褐色	明黄色	
第22回28	EIK	1住	調文	西絨	-	-	-	5.6	-	七ガホ小	七ガホ小	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第27回34	EIK	28土	調文	西絨	-	-	-	-	-	不明顯	ACC	良	暗褐色	灰褐色		
第27回35	EIK	28	調文	西絨	-	-	-	-	-	不明顯	ACC	良	淡黄色	淡褐色		
第28回48	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	直織後ナゲ	ACC	良	明黄色	系色	直織羽伏文ナホ
第28回49	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	直織後ナゲ	ナゲ	ACC	良	淡褐色	暗褐色	
第28回50	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	不明顯	不明顯	ACC	良	淡褐色	暗褐色	
第28回51	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	不明顯	不明顯	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第28回52	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	ナゲ	ナゲ	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第28回53	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	不明顯	ACC	良	明黄色	明黄色		
第28回54	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	ナゲ	ナゲ	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第28回55	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	ナゲ	ナゲ	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第28回56	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	ナゲ	ナゲ	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第28回57	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	-	-	ナゲ	ナゲ	ACC	良	淡褐色	淡褐色	
第28回58	EIK	一紙	調文	西絨	-	-	-	7.9	-	不明顯	不明顯	ACC	良	淡褐色	暗褐色	

单孔2cm, ①は保存品。

紺土: A:水洗石 B:石英石 C:赤色蛭子 D:白色蛭子 E:白色蛭子 F:黑色蛭子 G:母母 H:砂砾 安は安山岩 黑は黒曜石

第6表 出土石器観察表

辨認番号	区名	遺構名	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第8区8	F区	1土	石器	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.8	
第8区9	F区	17土	石器	安山岩	(2.1)	1.4	0.45	1.3	
第8区10	F区	16土	打製石斧		(16.3)	(7.9)	1.6	298.5	
第18区19	H区	6土	石器	黒曜石	(2.8)	(1.1)	0.4	1.0	
第18区20	H区	4土	石器	鶴島系黒曜石	(1.4)	1.9	0.4	1.1	
第18区21	H区	8土	石器	サヌカイト	2.2	(1.6)	0.3	0.5	
第18区22	H区	6土	2次加工削片	黒曜石	2.0	1.8	0.4	1.0	
第18区23	H区	9土	2次加工削片	黒曜石	2.1	1.4	0.5	1.6	
第18区24	H区	1住	2次加工削片	黒曜石	3.2	1.8	0.3	2.3	
第18区25	H区	9土	2次加工削片	黒曜石	3.7	1.1	0.7	2.4	
第18区26	H区	P4	打製石斧	安山岩	(6.3)	6.6	1.0	52.6	
第18区27	H区	6土	打製石斧	安山岩	0.9	6.3	1.0	37.0	
第18区28	H区	一抵	石核	サヌカイト	5.6	(3.0)	1.8	32.4	
第22区29	I区	整	石器	結晶片岩	1.75	1.75	0.30	0.7	
第22区30	I区	整	スクレイバー	結晶片岩	1.15	3.40	0.40	2.1	
第22区31	I区	整	2次加工削片	結晶片岩	2.95	2.80	0.50	3.7	
第22区32	I区	整	使用痕削片	結晶片岩	2.35	1.90	0.30	1.2	
第22区33	I区	整	使用痕削片	結晶片岩	1.60	2.05	0.45	1.3	
第22区36	I区	4土	2次加工削片	結晶片岩	2.65	2.20	0.70	3.4	石器のツマミか?
第22区37	I区	5土	石片	結晶片岩	10.25	3.40	0.65	34.6	
第22区38	I区	20土	石器	結晶片岩	2.45	(1.90)	0.40	0.8	
第22区39	I区	20土	石器	結晶片岩	(1.60)	(1.45)	0.40	0.6	
第22区40	I区	20土	石器	結晶片岩	(2.95)	(1.90)	0.50	1.7	
第22区41	I区	22土	石器	粒状灰岩	2.25	(1.90)	0.45	1.4	
第22区42	I区	22土	使用痕削片	結晶片岩	2.20	3.40	0.70	2.9	
第22区43	I区	33土	ナイフ形石器	結晶片岩	5.10	1.50	0.70	4.1	
第22区44	I区	33土	使用痕削片	結晶片岩	2.15	2.75	1.20	5.5	スクレイバーか?
第22区45	I区	34土	石核	結晶片岩	(2.25)	(1.30)	0.40	0.8	
第22区46	I区	34土	スクレイバー	チャート	2.90	2.50	1.20	9.2	
第22区47	I区	40土	石器	結晶片岩	(1.85)	(1.70)	0.35	0.7	
第22区59	I区	一抵	台形研磨器	結晶片岩	2.55	1.50	0.70	2.0	
第22区60	I区	一抵	石器	結晶片岩	2.65	(2.90)	0.45	0.9	
第22区61	I区	一抵	石器	結晶片岩	2.00	(1.30)	0.35	0.6	
第22区62	I区	一抵	石器	結晶片岩	2.10	(1.45)	0.35	0.6	
第22区63	I区	一抵	石器	結晶片岩	1.85	1.45	0.25	0.5	
第22区64	I区	一抵	石器	結晶片岩	1.20	(1.50)	0.20	0.3	
第22区65	I区	一抵	スクレイバー	結晶片岩	3.85	3.80	1.10	12.6	
第22区66	I区	一抵	スクレイバー	結晶片岩	2.15	2.50	0.50	3.1	石器のツマミか?
第22区67	I区	一抵	スクレイバー	結晶片岩	2.15	2.70	0.55	2.7	サイドブレードか?
第22区68	I区	一抵	スクレイバー	結晶片岩	2.65	3.05	0.95	5.9	
第22区69	I区	一抵	ナイフ形スクレイバー	結晶片岩	3.55	1.90	0.90	3.3	
第22区70	I区	一抵	2次加工削片	結晶片岩	3.85	2.75	1.30	6.9	スクレイバーか?
第22区71	I区	一抵	2次加工削片	結晶片岩	1.80	2.75	0.85	3.9	
第22区72	I区	一抵	二次加工削片	結晶片岩	2.00	2.20	0.40	1.3	
第22区73	I区	一抵	二次加工削片	結晶片岩	2.85	2.50	0.85	4.9	
第22区74	I区	一抵	二次加工削片	結晶片岩	3.25	2.95	0.55	4.2	
第22区75	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	2.65	3.00	0.40	2.0	
第22区76	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	2.60	2.00	0.50	2.1	
第22区77	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	2.55	2.20	0.45	1.9	
第22区78	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	2.90	1.95	0.50	1.3	
第22区79	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	2.55	1.40	0.35	0.8	
第22区80	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	1.65	1.65	0.30	1.0	
第22区81	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	3.10	2.05	0.55	1.8	
第22区82	I区	一抵	使用痕削片	結晶片岩	1.60	2.35	1.49	3.3	

※単位はcm ( )は復存長・重

写真図版 1



F区調査前



F区調査後



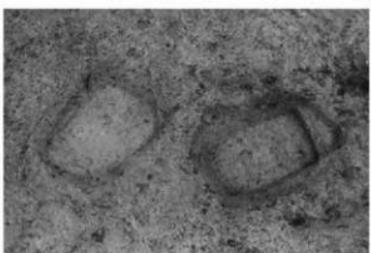
F区1号土坑



F区1号土坑遺物出土状況



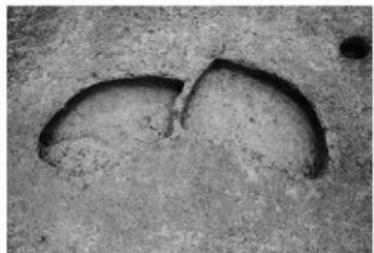
F区3~6号土坑



F区10・11号土坑



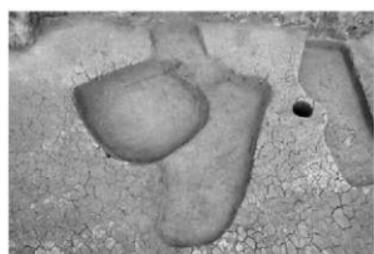
F区12・13号土坑



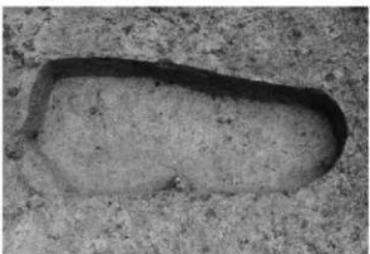
F区 14・15号土坑



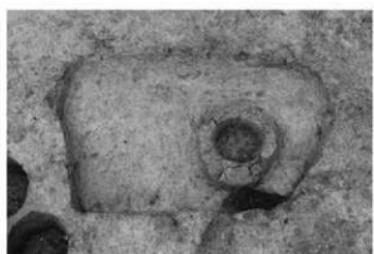
F区 16号土坑



F区 17～20号土坑



F区 21号土坑



F区 22号土坑



F区 24号土坑

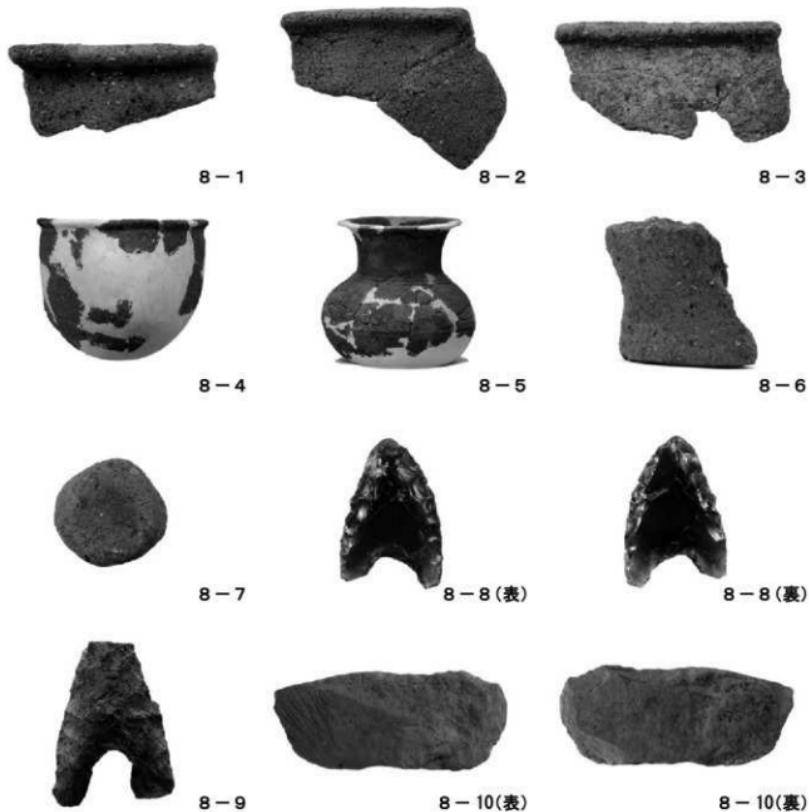


F区 25号土坑



F区 28・29号土坑

写真図版 3



調査区全景(東より)



調査区全景(南より)



調査区全景(西より)



写真図版 5



1号竪穴住居



2号竪穴住居



3号竪穴住居



4号土坑



5号土坑



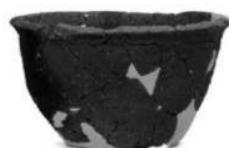
5号土坑内土器出土状況



6号土坑



9号土坑



17-1



17-3



17-5



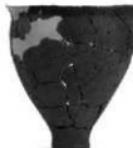
17-6



17-7



17-13



17-14



17-15



17-16



17-17



18-19



18-20



18-21



18-23



18-24



18-26



18-27



18-28

写真図版 7



調査区遠景 1



調査区遠景 2



竪穴遺構 1



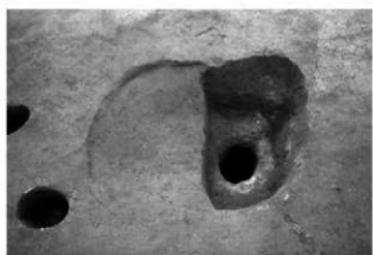
竪穴遺構 2



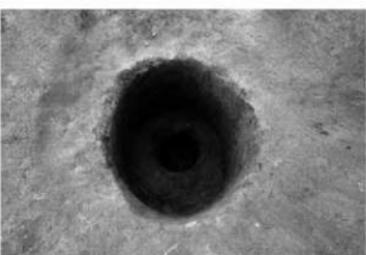
竪穴遺構遺物出土状況



5号土坑遺物出土状況

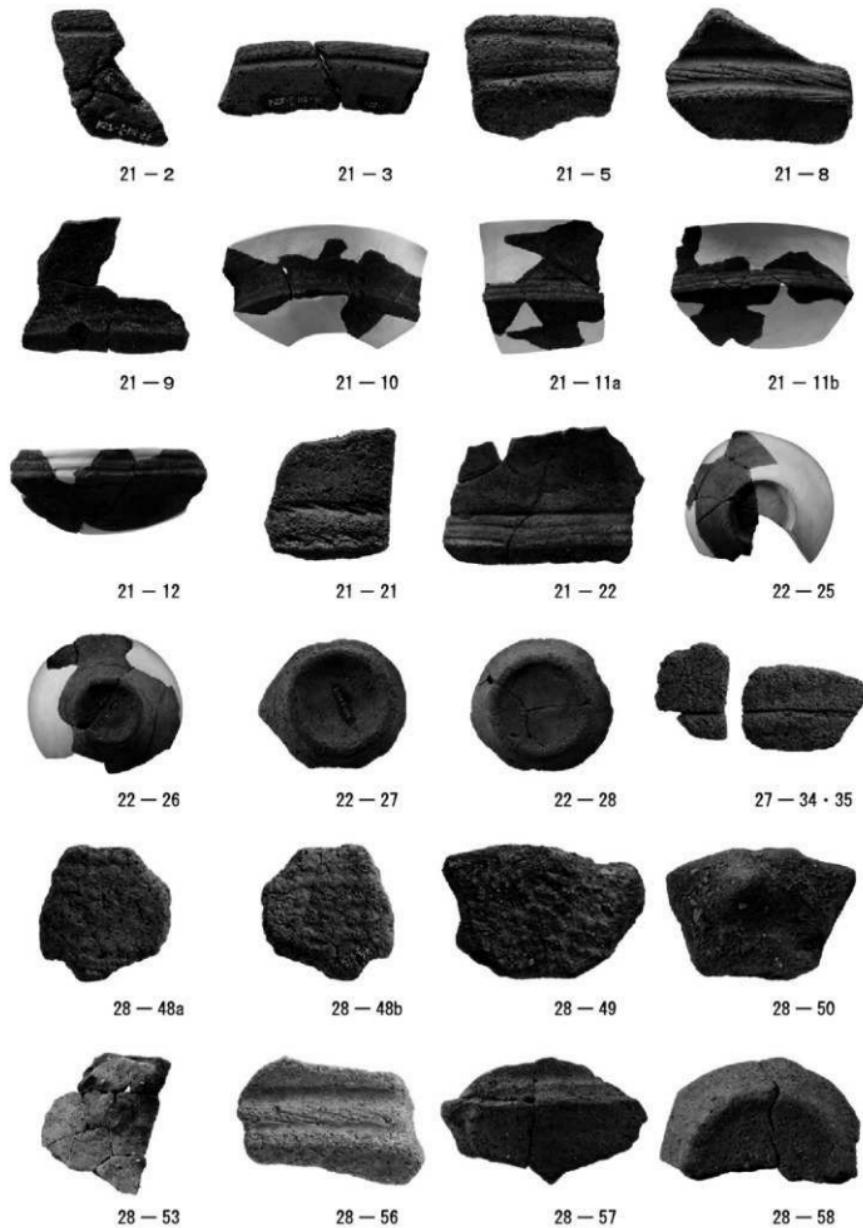


14号土坑

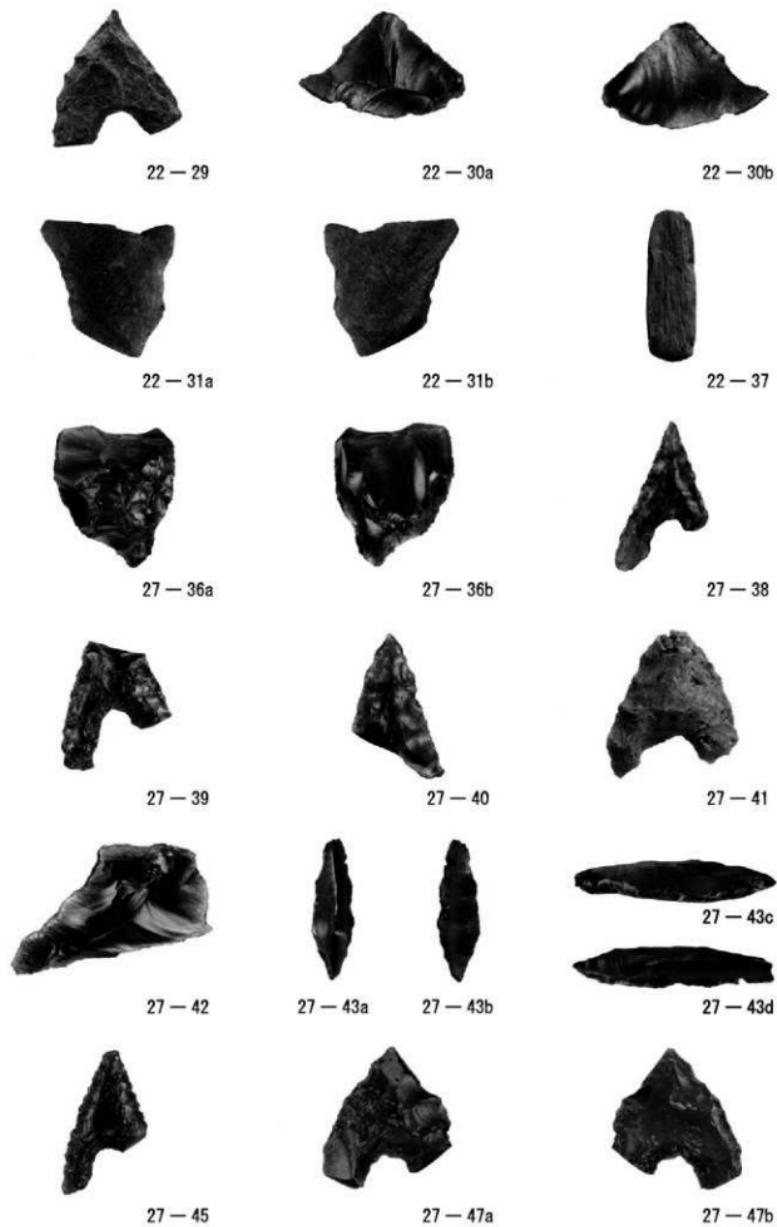


18号土坑

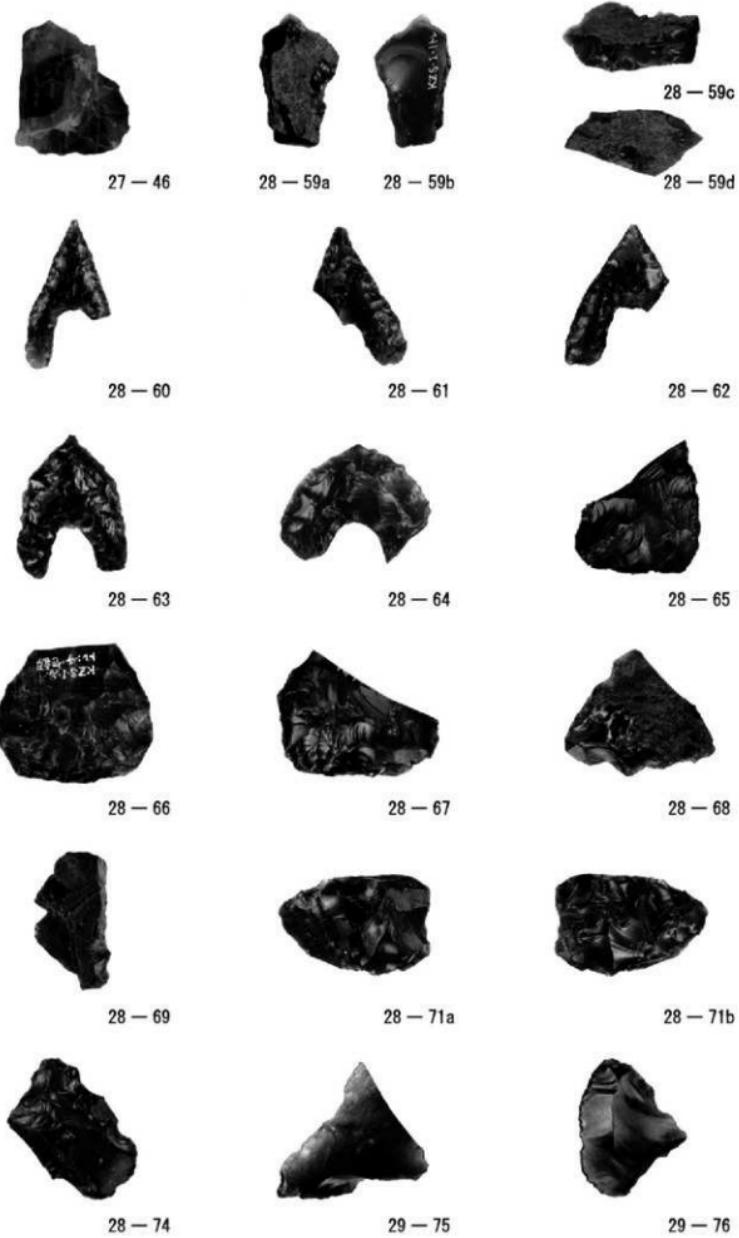
写真図版 8



写真図版 9



写真図版10



## 報告書抄録

ふりがな	くずばるいせき
書名	葛原遺跡III
副書名	F・H・I区の調査報告
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	79
編著者名	土居和幸・行時志郎・今田秀樹
編集機関	日田市教育委員会文化財保護課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2007年3月30日(平成19年3月30日)

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
葛原遺跡F区	大分県日田市 大字西有田 字葛原	44204-6	651057	33-21	131-25	19870803 ~19871008	497 m <sup>2</sup>	道路建設
葛原遺跡H区						19941216 ~19950121	440 m <sup>2</sup>	水道施設建設
葛原遺跡I区						19960710 ~19960810	3000 m <sup>2</sup>	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
葛原遺跡F区	集落跡	弥生時代	土坑30基、ピット93	弥生土器、石器	
葛原遺跡H区	集落跡	縄文時代 弥生時代	堅穴住居3軒、掘立柱建物 1棟、土坑10基、溝2条	縄文土器 弥生土器、石器	
葛原遺跡I区	集落跡	旧石器時代 縄文時代	堅穴遺構1基、土坑41基	ナイフ形石器 台形様石器 縄文土器、石器	

### 葛原遺跡III

2007年3月30日

編集 日田市教育委員会財保護課

877-0077 大分県日田市南友田町516-1

発行 日田市教育委員会

877-8601 大分県日田市田島2-6-1

印刷 山本印刷有限会社

〒877-0059 大分県日田市大日町3986-3